科目名		人間学特講（ＳＲ）
担当教員		一ノ瀬　正樹
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	・哲学・倫理学の観点から、「人間とは何か」、「人間はどう生きるべきか」、といった根本的な問題について考えるための基本的視点を培ってもらう。全体として、西洋哲学の解説を軸とする。その際、「因果」すなわち「原因と結果」の関係性に焦点を合わせて、その認識論的・道徳哲学的射程を解き明かしていきたい。部分的に、仏教的な「因果応報」の思想にも触れていく。 ・当然視される前提について、あえて「問い」を向けるという姿勢を養ってほしい。自分は正しい、と思っても、一旦保留して、別の考え方はありえるか、という思考ができるようになってほしい。 ・人間に関わる諸問題は、ほとんどが複雑的・複層的であり、一方のサイドからの単純な切り分けが困難なものであること、この「人間本性の事実」をいつも考慮に入れるようになっていただきたい。
	テキストの概要	因果性の問題に、安楽死の問題を加味した資料集を編纂した。これ を基にして、おもには西洋哲学の視点を核に据えて、因果関係にまつわる諸問題を検討していく。また、安楽死の問題を題材にして、「死」の問題も検討していきたい。加えて、真宗学の視点から親鸞における因果応報の考え方についても触れる予定である。人間学の基盤をなす問題系を通覧してみたい。
授業計画		スクーリング・レポートを選択した場合、スクーリングとレポートを合わせて４単位を修得します。スクーリングは本学で開催される原則１００分の講義を１４時限受講し、試験に合格することで２単位を修得し、レポートは２つのレポート（１つの課題に対して２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　世界のすがた 第２章　ヒュームの因果批判 第３章　世界のきまりと世界にすまう 第４章　「死ぬ権利」の欺瞞 第５章 〈スクーリング〉 第 01 回：「哲学」とは何か 第 02 回：哲学を教育することの意義 第 03 回：時間にまつわる形而上学的問題について 第 04 回：帰納法にまつわる様々なパズルについて 第 05 回：「観念論」について 第 06 回：ヒューム哲学の基本的構図について

	第 07 回：倫理学の諸問題について 第 08 回：「予防原則」という考え方について 第 09 回：3.11 の被害とは何だったのか 第 10 回：「弱い予防原則」と「強い予防原則」の対比について 第 11 回：二つの予防原則について 第 12 回：予防原則における因果関係 第 13 回：直説法条件文と、反事実的条件文の対比 第 14 回：出席者によるミニ・プレゼンテーション		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		人間学特講（R）
担当教員		一ノ瀬　正樹
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	・哲学・倫理学の観点から、「人間とは何か」、「人間はどう生きるべきか」、といった根本的な問題について考えるための基本的視点を培ってもらう。全体として、西洋哲学の解説を軸とする。その際、「因果」すなわち「原因と結果」の関係性に焦点を合わせて、その認識論的・道徳哲学的射程を解き明かしていきたい。部分的に、仏教的な「因果応報」の思想にも触れていく。 ・当然視される前提について、あえて「問い」を向けるという姿勢を養ってほしい。自分は正しい、と思っても、一旦保留して、別の考え方はありえるか、という思考ができるようになってほしい。 ・人間に関わる諸問題は、ほとんどが複雑的・複層的であり、一方のサイドからの単純な切り分けが困難なものであること、この「人間本性の事実」をいつも考慮に入れるようになっていただきたい。
	テキストの概要	因果性の問題に、安楽死の問題を加味した資料集を編纂した。これ を基にして、おもには西洋哲学の視点を核に据えて、因果関係にまつわる諸問題を検討していく。また、安楽死の問題を題材にして、「死」の問題も検討していきたい。加えて、真宗学の視点から親鸞における因果応報の考え方についても触れる予定である。人間学の基盤をなす問題系を通覧してみたい。
授業計画		４つのレポート（ ２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート） を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　世界のすがた 第２章　ヒュームの因果批判 第３章　世界のきまりと世界にすまう 第４章　「死ぬ権利」の欺瞞 第５章
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	

	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		死生学特講（ＳＲ）
担当教員		川端　美季
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	この「死生学特講」では、主に死をめぐる先端医療と倫理問題を問い直し、生命倫理という従来の問い直し方それ自体を問い直し、死生について学問的に熟考できるようになることを目指します。そして、それらの作業を通じて、自分自身の死生観を深めるとともに、人間と社会環境に関して幅広く理解できる能力を身につけることを目的とします。さらには、学問の基本にして要である「批判精神」を習得します。
	テキストの概要	香川知晶編著『資料集（死生学特講）』（武蔵野大学大学院通信教育部、2019 年）
授業計画		スクーリングとレポートとを合わせて４単位を修得します。スクーリングは、本学で開講される１００分の講義を１４時限受講し、試験に合格することで２単位を修得し、レポートは、２つのレポート（１つの課題に対して２本のレポート）を提出した上、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 【第 1 章・第 2 章】バイオエシックス・生命倫理の成立 【第 3 章】新型出生前診断と「不幸な子どもの生まれない運動」 【第 4 章】「自己決定」という概念の系譜 【第 5 章・第 6 章・第 7 章】「いのち」の終わりをめぐる諸問題 〈スクーリング〉 第 01 回:命をめぐる問題についての基本的な考え方 第 02 回:重度障害新生児の治療停止 第 03 回:出生前診断 第 04 回:新型出生前診断 第 05 回:優生思想 第 06 回:遺伝子診断の問題 第 07 回:生殖技術①AID 第 08 回:生殖技術②体外受精 第 09 回:生殖技術③代理出産 第 10 回:脳死臓器移植①臓器移植の展開 第 11 回:脳死臓器移植②脳死の観点からの問題の整理 第 12 回:治療停止･安楽死①ｶﾚﾝ事件 第 13 回:治療停止･安楽死②世界の動向 第 14 回:まとめ
成績評価の方法		単位認定試験
		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目

実践的教育を行う授業科目の種別	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		死生学特講（R）
担当教員		川端　美季
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	この「死生学特講」では、主に死をめぐる先端医療と倫理問題を問い直し、生命倫理という従来の問い直し方それ自体を問い直し、死生について学問的に熟考できるようになることを目指します。そして、それらの作業を通じて、自分自身の死生観を深めるとともに、人間と社会環境に関して幅広く理解できる能力を身につけることを目的とします。さらには、学問の基本にして要である「批判精神」を習得します。
	テキストの概要	香川知晶編著『資料集（死生学特講）』（武蔵野大学大学院通信教育部、2019 年）
授業計画		４本のレポート（２つの課題に対してそれぞれ２本のレポート）を提出した上、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 【第 1 章・第 2 章】バイオエシックス・生命倫理の成立 【第 3 章】新型出生前診断と「不幸な子どもの生まれない運動」 【第 4 章】「自己決定」という概念の系譜 【第 5 章・第 6 章・第 7 章】「いのち」の終わりをめぐる諸問題
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		老年学特講（ＳＲ）
担当教員		菅原　育子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	老年学（ジェロントロジー）は、人間の生涯にわたる変化―生涯発達とエイジングー、および社会の高齢化―社会の構成員に占める高齢者の増加―を理解し、それらの変化がもたらす多様な課題の解明を目指す総合的な学問です。世界規模で人口高齢化が進む現代社会において、私たち一人一人がどう生きるか、どんな社会をつくるかという展望を持つために基盤となる学問と言えるでしょう。「老年学特論」では、老いとはどんな現象か、長命化は人間に何をもたらしてきたのか、高齢社会とはどういうことか、高齢者が増えることがなぜ人々の暮らしに課題を生じさせているのか、について考えを深めます。「老い」という誰もが経験する現象に対し、多角的な視点から理解、分析する力を修得し、「老いること」「高齢者である/になること」「高齢社会に生きること」について、一人一人が課題意識を持って取り組むことをめざします。
	テキストの概要	工藤由貴子編（2009）『資料集（老年学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部. ＊資料集は主にレポート作成のための教材です。スクーリングでは別途資料を配布して講義を行 うこともあります。
授業計画		スクーリングとレポートを合わせて４単位を修得します。スクーリングは本学で集中開催される原則１００分の講義を１４限受講し、試験に合格することで２単位を修得し、レポートは２つのレポート（１つの課題に対して２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 できます。 ①レポートを選択した場合、４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を 提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 ②スクーリング・レポートを選択した場合、スクーリングとレポートを合わせて４単位を修得し ます。スクーリングは本学で集中開催される原則１００分の講義を１４限受講し、試験に合格する ことで２単位を修得し、レポートは２つのレポート（１つの課題に対して２つのレポート）を提出 し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 ＊履修者は必ず学習方法を選択しなければなりません。その登録方法については、ＷＢＴのガイ ダンスを確認してください。 〈スクーリング〉 １日目 第１回：老年学（ジェロントロジー）とは

	学問としての歴史・学際性を理解する・研究法 第２回：「老いる」について理解する エイジングとは・身体的な老い 第３回：「老いる」について理解する（２） 心理的な老い・社会的な老い 第４回：老いの意味と価値を問う 「エイジング」を巡る価値観の変遷・ディスカッション① ２日目 第５回：社会の高齢化について理解する 日本、アジア、世界の高齢化の実態と課題 第６回：日本社会の高齢化について理解する 日本社会の人口構造の変化や家族構造の変化の実態と課題 第７回：社会の高齢化と地域・住まい 過疎問題と都市問題、Aging in Place、どこで誰とどう暮らすかの選択 第８回：豊かな老い・幸福な老いとは何か データで読む豊かさ・理想の老いに関する諸理論・ディスカッション② ３日目 第９回：高齢者・高齢期と家族 高齢者の配偶関係・親子関係・祖父母-孫関係、家族外関係 第 10 回：高齢者・高齢期と介護 家族介護、介護の社会化、制度の変化と暮らしの変化 第 11 回：高齢者・高齢期と就労および社会参加 高齢者就労、高齢期のプロダクティビティ、高齢者の社会とのつながり 第 12 回：高齢者・高齢期と学び、遊び 教育老年学、消費者としての高齢者、新しい技術の受容・ディスカッション③ ４日目 第 13 回：エイジングと高齢社会の今日的課題 コロナ禍と高齢社会・敬老と高齢社会ほか 第 14 回：まとめ 1～13 回のスクーリング内容の振り返り・ディスカッション④
成績評価の方法	単位認定試験

実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		

	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		老年学特講（R）
担当教員		菅原　育子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	老年学（ジェロントロジー）は、人間の生涯にわたる変化―生涯発達とエイジングー、および社会の高齢化―社会の構成員に占める高齢者の増加―を理解し、それらの変化がもたらす多様な課題の解明を目指す総合的な学問です。世界規模で人口高齢化が進む現代社会において、私たち一人一人がどう生きるか、どんな社会をつくるかという展望を持つために基盤となる学問と言えるでしょう。「老年学特論」では、老いとはどんな現象か、長命化は人間に何をもたらしてきたのか、高齢社会とはどういうことか、高齢者が増えることがなぜ人々の暮らしに課題を生じさせているのか、について考えを深めます。「老い」という誰もが経験する現象に対し、多角的な視点から理解、分析する力を修得し、「老いること」「高齢者である/になること」「高齢社会に生きること」について、一人一人が課題意識を持って取り組むことをめざします。
	テキストの概要	工藤由貴子編（2009）『資料集（老年学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部.
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　老年学の研究を進めるに際して必要な基本概念 第２章　高齢社会を生きる 第３章　都市で老いるーAging in Placeー 第４章　高齢社会の新しい仕組み
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	

備考	

科目名		グリーフケア特講（ＳＲ）
担当教員		新明　一星
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	「現代社会の中で適応困難を来たしている人たちの心理や行動のメカニズムを理解する」という目標に従い、喪失と悲嘆について次のように学習する。喪失による悲嘆反応について心理学的、臨床的、倫理的側面についての専門的知識を体得し、各人の関心を持った領域でのグリーフケアについて内外の文献研究や各人の実践を元に主体的に考察を深める。加えて、喪失体験と関連の深い心的外傷についても学習し、死別体験も含め「人が心に傷を受けること」についても検討を深める。
	テキストの概要	テキストは、「白井明美・小西聖子編（2009）『資料集（グリーフケア特講）』武蔵野大学大学院通信教育部」を用いる。通常の悲嘆と複雑性悲嘆（遷延性悲嘆障害）の概念、経過、治療について系統的に学ぶ。
授業計画		スクーリングとレポートを合わせて４単位を修得します。スクーリングは本学で集中開催される１００分の講義を１４コマ受講し、試験に合格することで２単位を修得し、レポートは２つのレポート（１つの課題に対して２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 第 01 回：悲嘆の概念と愛着理論 第 02 回：通常の悲嘆反応の特徴 第 03 回：悲嘆のプロセスの諸理論 第 04 回：通常の悲嘆の疫学 第 05 回：通常ではない悲嘆の概念 第 06 回：複雑性悲嘆の概念と変遷 第 07 回：複雑性悲嘆の疫学 第 08 回：犯罪被害者遺族 第 09 回：自死遺族・災害遺族 第 10 回：子どもの悲嘆 第 11 回：通常の悲嘆のケア・介入・カウンセリング 第 12 回：複雑性悲嘆の治療 第 13 回：あいまいな喪失 第 14 回：試験・まとめ 〈自宅学習〉 第１章　死別研究の基本的理解 第２章　悲嘆研究の発展 第３章　暴力的な死別を経験した遺族とは 第４章　治療とサポートの実際
成績評価の方法		単位認定試験

実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		グリーフケア特講（R）
担当教員		新明　一星
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	「現代社会の中で適応困難を来たしている人たちの心理や行動のメカニズムを理解する」という目標に従い、喪失と悲嘆について次のように学習する。喪失による悲嘆反応について心理学的、臨床的、倫理的側面についての専門的知識を体得し、各人の関心を持った領域でのグリーフケアについて内外の文献研究や各人の実践を元に主体的に考察を深める。加えて、喪失体験と関連の深い心的外傷についても学習し、死別体験も含め「人が心に傷を受けること」についても検討を深める。
	テキストの概要	テキストは、「白井明美・小西聖子編（2009）『資料集（グリーフケア特講）』武蔵野大学大学院通信教育部」を用いる。通常の悲嘆と複雑性悲嘆（遷延性悲嘆障害）の概念、経過、治療について系統的に学ぶ。
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）　を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　死別研究の基本的理解 第２章　悲嘆研究の発展 第３章　暴力的な死別を経験した遺族とは 第４章　治療とサポートの実際
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		カウンセリング特講（R）
担当教員		野口　普子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目では，エビデンス・ベースト・カウンセリングの考え方について学び，日本から発信された認知行動療法に関する知見について紹介します。 また，東日本大震災などの自然災害や犯罪などのトラウマ体験によって引き起こされる外傷後ストレス障害（PTSD）を例に，心理学的基礎理論に基づくカウンセリング技法を紹介し，その基礎となる心理学モデルの検証に関する知見の紹介，臨床場面におけるカウンセリングの実際について学び，エビデンス・ベースト・カウンセリングに対する理解を深めることを目標とします。
	テキストの概要	野口普子編（2014）『資料集（カウンセリング特講）』武蔵野大学大学院通信教育部.
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し，すべてに合格し，単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 【資料 1】　「エビデンス・ベースト・カウンセリングの理論的基礎」 【資料 2】　「うつ病の認知療法・認知行動療法の実際」 【資料 3】　「日本における心理士による うつ病に対する認知行動療法の系統的レビュー」 【資料 4】「うつ病の認知行動療法－わが国における実証的研究」 【資料 5】　「エビデンスに基づく非薬物療法　認知行動療法のエビデンス」 【補足 1】　「外傷後ストレス障害（Posttraumatic stress disorder; PTSD）の概観」 【資料 6】　「PTSD に対する認知行動療法　情動処理理論を中心に」 【資料 7】　「認知行動療法（PE 療法）による PTSD 治療　―日本におけるエビデンスと被害者ケア現場での実践応用―」 【資料 8】　「交通事故に関する認知的評価と外傷後ストレス症状に関する縦断研究」 【資料 9】「心理相談室におけるトラウマ臨床の困難と介入」
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	

	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		仏教史特講（S）
担当教員		長尾　重輝
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目では、紀元前５世紀にインドに生まれた仏教が、インド国内はもとより、アジア各地へ広く展開した歴史を学びます。各地に伝播した仏教は、その土地の宗教や文化全般に多大な影響を与えたことは言うまでもありませんが、同時に、仏教自体もその土地の信仰や習俗から様々な影響を受け、変容してきたことも重要な事実です。本科目では、2500年に及ぶ仏教の歴史を、インド、中国、日本、そして東南アジアの四地域に分けて概観することにより、仏教に対する総合的、大局的な見方を養うことを到達目標とします。
	テキストの概要	高橋審也・石上和敬編（2012）『資料集（仏教史特講）』武蔵野大学大学院通信教育部. ※浄土真宗本願寺派教師資格を取得する場合は、『浄土真宗本願寺派 僧侶教本Ａ』（本願寺出版社）および 『浄土真宗本願寺派 僧侶教本Ｂ』（本願寺出版社）を必読するようお願いします。
授業計画		本科目には、①レポート、②スクーリングの２つの学習方法があり、選択することができます。 ①レポートを選択した場合、４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を 提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 ②スクーリングを選択した場合、スクーリングは本学で毎週開催される原則１００分の講義を２ ８時限受講し、試験に合格することで４単位を修得します。 〈スクーリング〉 1. ガイダンス 2. インド：古代史 3. インド：釈尊以前 4. インド：釈尊とその時代（１） 5. インド：釈尊とその時代（２） 6. インド：原始仏教 7. インド：部派仏教 8. インド：大乗仏教（１） 9. インド：大乗仏教（２） 10. インド：大乗仏教（３） 11. 中国：古代史 12. 中国：仏教伝来以前 13. 中国：仏教伝来（１） 14. 中国：仏教伝来（２） 15. 中国：南北朝時代（１） 16. 中国：南北朝時代（２）

	17. 中国：隋唐時代（１） 18. 中国：隋唐時代（２） 19. 中国：宋元明時代 20. 日本：古代史 21. 日本：仏教伝来以前 22. 日本：仏教伝来（１） 23. 日本：仏教伝来（２） 24. 日本：奈良時代 25. 日本：平安時代（１） 26. 日本：鎌倉・室町時代（１） 27. 日本：鎌倉・室町時代（２） 28. 日本：江戸時代		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		仏教史特講（R）
担当教員		長尾　重輝
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目では、紀元前５世紀にインドに生まれた仏教が、インド国内はもとより、アジア各地へ広く展開した歴史を学びます。各地に伝播した仏教は、その土地の宗教や文化全般に多大な影響を与えたことは言うまでもありませんが、同時に、仏教自体もその土地の信仰や習俗から様々な影響を受け、変容してきたことも重要な事実です。本科目では、2500年に及ぶ仏教の歴史を、インド、中国、日本、そして東南アジアの四地域に分けて概観することにより、仏教に対する総合的、大局的な見方を養うことを到達目標とします。
	テキストの概要	高橋審也・石上和敬編（2012）『資料集（仏教史特講）』武蔵野大学大学院通信教育部. ※浄土真宗本願寺派教師資格を取得する場合は、『浄土真宗本願寺派 僧侶教本Ａ』（本願寺出版社）および 『浄土真宗本願寺派 僧侶教本Ｂ』（本願寺出版社）を必読するようお願いします。
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　インド仏教の歴史 第２章　中国仏教の歴史 第３章　日本仏教の歴史 第４章　南伝仏教の歴史
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		仏教学特論（Ｓ）
担当教員		新作　慶明
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目の到達目標は、仏教学において基礎的とされる教義の概要を、実際の仏教文献（翻訳を含む）に基づいて理解し、考察することができるようになることです。 具体的には、仏教の代表的な教義の概要を学んでいきます。原始仏典の苦・無常・無我や四諦説などの基礎的な教義、部派仏典の『倶舎論』などに見られるアビダルマ関連の諸知識と思考法、そして大乗の諸経典の思想や空や唯識などの学派形成に大きな影響を与えた思想等を学びます。また、仏教を社会的存在として捉えた場合、教義体系のみならず、教団を律してきた戒律も重要であることから、戒律文献にも学び射程を拡げます。
	テキストの概要	石上和敬編（2016）『資料集（仏教学特論）』武蔵野大学大学院通信教育部。
	授業計画	スクーリングは本学で毎週開催される１００分の講義を２８時限受講し、試験に合格することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　原始仏典を学ぶ 第２章　アビダルマ文献を学ぶ 第３章　戒律文献を学ぶ 第４章　大乗仏典を学ぶ 〈スクーリング〉 第０１回：イントロダクション 第０２回：原始仏典の思想① 第０３回：原始仏典の思想② 第０４回：原始仏典の思想③ 第０５回：原始仏典を読む① 第０６回：原始仏典の思想② 第０７回：　原始仏典の思想③ 第０８回：アビダルマ仏教の思想① 第０９回：アビダルマ仏教の思想② 第１０回：アビダルマ文献を読む① 第１１回：アビダルマ文献を読む② 第１２回：戒律文献とは 第１３回：戒律文献を読む① 第１４回：戒律文献を読む② 第１５回：大乗仏教の思想 第１６回：空思想① 第１７回：空思想②

	第１８回：大乗論書を読む① 第１９回：大乗論書を読む② 第２０回：大乗論書を読む③ 第２１回：唯識思想① 第２２回：唯識思想② 第２３回：大乗論書を読む④ 第２４回：大乗論書を読む⑤ 第２５回：如来蔵思想① 第２６回：如来蔵思想② 第２７回：大乗論書を読む⑥ 第２８回：大乗論書を読む⑦		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験 （経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		仏教学特論（R）
担当教員		新作　慶明
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目の到達目標は、仏教学において基礎的とされる教義の概要を、実際の仏教文献（翻訳を含む）に基づいて理解し、考察することができるようになることです。 具体的には、仏教の代表的な教義の概要を学んでいきます。原始仏典の苦・無常・無我や四諦説などの基礎的な教義、部派仏典の『倶舎論』などに見られるアビダルマ関連の諸知識と思考法、そして大乗の諸経典の思想や空や唯識などの学派形成に大きな影響を与えた思想等を学びます。また、仏教を社会的存在として捉えた場合、教義体系のみならず、教団を律してきた戒律も重要であることから、戒律文献にも学び射程を拡げます。
	テキストの概要	石上和敬編（2016）『資料集（仏教学特論）』武蔵野大学大学院通信教育部
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　原始仏典を学ぶ 第２章　アビダルマ文献を学ぶ 第３章　戒律文献を学ぶ 第４章　大乗仏典を学ぶ
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		現代仏教特殊研究
担当教員		石上　和敬・松本　紹圭
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	＜知識専門性の到達目標＞ 現代社会において仏教者（僧侶と在家信者）や寺院が果たしうる役割を考察する際，その前提となる知識を習得し，それを応用する能力を身につけることを到達目標とする． ＜関心・態度・人格の到達目標＞ 現代社会が直面する諸課題に対して仏教者や寺院がその知見に基づいて貢献できる可能性を積極的に模索することができるようになることを到達目標とする． ＜思考・判断の到達目標＞ 古典文献である仏典の思想を現代社会のテーマにどのように繋げ，活かしていくのか，という視点から思考できるようになることが到達目標である． ＜実践的スキル・表現の到達目標＞ 古典文献の読解から得られる知見と，現代社会の諸課題を社会科学的な視点を加味しつつ分析することから得られる知見とを，関連づけながら考察し，その成果をわかりやすく表現できるようになることが到達目標である．
	テキストの概要	本科目はスクーリングだけの開講であるため、資料集は配布しません。スクーリング時に資料を配布して講義を行います。また、通学制との合同授業（Ｓ）の場合、別途参考資料として、テキストを購入していただくこともあります。
	授業計画	本科目は、スクーリングだけの学習方法で開講されます。スクーリングは、本学で開催される１００分の講義を２８時限受講し、試験に合格することで４単位を修得します。 〈スクーリング〉 第 1 回：イントロダクション・受講者自己紹介・問題意識の設定 第 2 回：現代日本仏教のあり方について 第 3 回：現代日本仏教のあり方について 第 4 回：現代日本仏教のあり方について 第 5 回：経営学から見たお寺づくり論 第 6 回：経営学から見たお寺づくり論 第 7 回：経営学から見たお寺づくり論 第 8 回：経営学から見たお寺づくり論 第 9 回：お寺づくり実践事例研究 第 10 回：お寺づくり実践事例研究 第 11 回：お寺づくり実践事例研究 第 12 回：お寺づくり実践事例研究 第 13 回：現代における僧侶像・寺院像

	第 14 回：現代における僧侶像・寺院像 第 15～16 回：現代の葬送問題 第 17～18 回：世界の仏教事情 第 19～20 回：ヨーロッパにおける仏教 第 21～22 回：メディアから見た仏教者 第 23～24 回：寺院の新たな挑戦 第 25～26 回：仏教者の社会貢献 第 27～28 回：宗教法人の社会的責任		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		インド思想特講（ＳＲ）
担当教員		佐藤　裕之
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	古代のバラモン教、バラモン教と土着宗教が融合したヒンドゥー教、そして、ひとつの解釈学として成立した正統哲学（六派哲学）を中心に、インド思想を歴史に沿って解説する。さらに、インド思想における人生観・人間観・解脱観などを原典に基づいて紹介する。インドにおける知の在り方と思惟方法、インドの人生観・人間観・解脱観について学び、インド思想の現代的意義や有効性などについて考察し、人間の精神、思考の根源の上に立って人間関係の新しい構築や修復を図れる能力を身につけていることをめざす。
	テキストの概要	佐藤裕之編（2010）『資料集（インド思想特講）』武蔵野大学大学院通信教育部.
授業計画		スクーリングとレポートを合わせて４単位を修得します。スクーリングは本学で集中開催される１００分の講義を１４時限受講し、試験に合格することで２単位を修得し、レポートは２つのレポート（１つの課題に対して２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　インド思想概観 第２章　インド思想における人間観－人間はいかに生きるべきか－ 第３章　インド思想における解脱観 第４章　インド思想アンソロジー 〈スクーリング〉 第 01 回：イントロダクション 第 02 回：バラモン教とヒンドゥー教の神々（１） 第 03 回：バラモン教とヒンドゥー教の神々（２） 第 04 回：バラモン教とヒンドゥー教の聖典（１） 第 05 回：バラモン教とヒンドゥー教の聖典（２） 第 06 回：ウパニシャッドの思想 第 07 回：ビデオ「シャンカラの生涯（抄）」 第 08 回：インド思想における解脱観（１） 第 09 回：インド思想における解脱観（２） 第 10 回：インド思想における解脱観（３） 第 11 回：ビデオ「ガンジスの大祭：クンブ・メーラ」 第 12 回：『バガヴァット・ギーター』の思想（１） 第 13 回：『バガヴァット・ギーター』の思想（１） 第 14 回：ビデオ「生と死を見つめる聖地：ベナレス」
成績評価の方法		単位認定試験
		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目

実践的教育を行う授業科目の種別	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		インド思想特講（S）
担当教員		佐藤　裕之
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	古代のバラモン教、バラモン教と土着宗教が融合したヒンドゥー教、そして、ひとつの解釈学として成立した正統哲学（六派哲学）を中心に、インド思想を歴史に沿って解説する。さらに、インド思想における人生観・人間観・解脱観などを原典に基づいて紹介する。インドにおける知の在り方と思惟方法、インドの人生観・人間観・解脱観について学び、インド思想の現代的意義や有効性などについて考察し、人間の精神、思考の根源の上に立って人間関係の新しい構築や修復を図れる能力を身につけていることをめざす。
	テキストの概要	佐藤裕之編（2010）『資料集（インド思想特講）』武蔵野大学大学院通信教育部.
	授業計画	スクーリングは本学で毎週開催される１００分の講義を２８時限受講し、試験に合格することで４単位を修得します。 〈スクーリング〉 第 01 回：イントロダクション 第 02 回：バラモン教は何か？ 第 03 回：『リグ・ヴェーダ』の神々 第 04 回：『リグ・ヴェーダ』に見られる世界創世神話 第 05 回：『アタルヴァ・ヴェーダ』の呪術 第 06 回：ブラーフマナの祭式 第 07 回：ウパニシャッドとは何か？ 第 08 回：ブラフマンとアートマン（１） 第 09 回：ブラフマンとアートマン（２） 第 10 回：ヒンドゥー教とは何か？ 第 11 回：ヒンドゥー教の神々（１） 第 12 回：ヒンドゥー教の神々（２） 第 13 回：『バガヴァッド・ギーター』の思想（１） 第 14 回：『バガヴァッド・ギーター』の思想（２） 第 15 回：インドの正統哲学（六派哲学） 第 16 回：サーンキヤの哲学 第 17 回：ヨーガの哲学 第 18 回：ニヤーヤの哲学 第 19 回：ヴァイシェーシカの哲学 第 20 回：ミーマーンサーの哲学 第 21 回：ヴェーダーンタの哲学 第 22 回：カースト制度 第 23 回：インドの人生観（１） 第 24 回：インドの人生観（２）

	第 25 回：インドの人間観（１） 第 26 回：インドの人間観（２） 第 27 回：インドの解脱観（１） 第 28 回：インドの解脱観（２）		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		インド思想特講（R）
担当教員		佐藤　裕之
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	古代のバラモン教、バラモン教と土着宗教が融合したヒンドゥー教、そして、ひとつの解釈学として成立した正統哲学（六派哲学）を中心に、インド思想を歴史に沿って解説する。さらに、インド思想における人生観・人間観・解脱観などを原典に基づいて紹介する。インドにおける知の在り方と思惟方法、インドの人生観・人間観・解脱観について学び、インド思想の現代的意義や有効性などについて考察し、人間の精神、思考の根源の上に立って人間関係の新しい構築や修復を図れる能力を身につけていることをめざす。
	テキストの概要	佐藤裕之編（2010）『資料集（インド思想特講）』武蔵野大学大学院通信教育部.
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　インド思想概観 第２章　インド思想における人間観－人間はいかに生きるべきか－ 第３章　インド思想における解脱観 第４章　インド思想アンソロジー
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		インド仏教特講（Ｓ）
担当教員		日野　慧運
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目では、インド仏教の概要を把握するために必須と考えられる四つのテーマを選び、最新の研究成果に拠りながら、その要点を学習します。四つのテーマとはすなわち、釈尊の伝記にまつわる諸問題、原始・部派仏典の概要、大乗仏教の興起の問題、そして、大乗経典の研究方法です。これらの学習を通して、インドにおいて仏教が何を主張してきたのか、また、仏教がどのようなあり方で歴史のなかに存在してきたのかという、インド仏教の思想史と教団史との双方について、現在の学界でのおおよその動向を踏まえつつ、理解を深めることが本科目の到達目標です。
	テキストの概要	石上和敬編（2012）『資料集（インド仏教特講）』武蔵野大学大学院通信教育部.
授業計画		本学で毎週開講するスクーリング講義（１時限１００分）を２８時限受講し、期末試験に合格することで、４単位を修得します。 〈スクーリング〉 第 01 回：イントロダクション 第 02 回：釈尊の生涯（1） 第 03 回：釈尊の生涯（2） 第 04 回：釈尊の生涯（3） 第 05 回：初期・部派仏教の仏典（1） 第 06 回：初期・部派仏教の仏典（2） 第 07 回：初期・部派仏教の仏典（3） 第 08 回：フォローアップ 第 09 回：大乗仏教の興起（1） 第 10 回：大乗仏教の興起（2） 第 11 回：大乗仏教の興起（3） 第 12 回：大乗経典の研究(1) 第 13 回：大乗経典の研究(2) 第 14 回：大乗経典の研究(3) 第 15 回：フォローアップ 第 16 回：初期仏典を読む（1） 第 17 回：初期仏典を読む（2） 第 18 回：初期仏典を読む（3） 第 19 回：初期仏典を読む（4） 第 20 回：初期仏典を読む（5） 第 21 回：フォローアップ 第 22 回：大乗経典を読む（1） 第 23 回：大乗経典を読む（2）

	第 24 回：大乗経典を読む（3） 第 25 回：大乗経典を読む（4） 第 26 回：大乗経典を読む（5） 第 27 回：期末試験 第 28 回：（予備日）		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		インド仏教特講（R）
担当教員		日野　慧運
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目では、インド仏教の概要を把握するために必須と考えられる四つのテーマを選び、最新の研究成果に拠りながら、その要点を学習します。四つのテーマとはすなわち、釈尊の伝記にまつわる諸問題、原始・部派仏典の概要、大乘仏教の興起の問題、そして、大乘経典の研究方法です。これらの学習を通して、インドにおいて仏教が何を主張してきたのか、また、仏教がどのようなあり方で歴史のなかに存在してきたのかという、インド仏教の思想史と教団史との双方について、現在の学界でのおおよその動向を踏まえつつ、理解を深めることが本科目の到達目標です。
	テキストの概要	石上和敬編（2012）『資料集（インド仏教特講）』武蔵野大学大学院通信教育部.
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　釈尊の生涯 第２章　原始仏教・部派仏教の仏典 第３章　大乘仏教の興起 第４章　特論　大乘経典の研究－＜悲華経＞を中心として
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		インド語仏教文献講読
担当教員		丸井　浩
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	＜知識の専門性の到達目標＞ インド仏教原典の読解にはサンスクリット語とパーリ語の知識が不可欠である。特に初期仏典の原典解読には、パーリ語文法の学習が必須である。本授業は隔年でサンスクリット語文法ないしパーリ語文法の解説、および初級レベルの読解練習を行う。本年度はパーリ語文法の解説および若干のパーリ語文献の解読を行い、初期仏教原典解読にとって必須の語学的基礎力の養成と専門的知識の修得を図ることが、到達目標である。 ＜関心・態度・人格の到達目標＞ パーリ語文法を学ぶにあたって、サンスクリット語初等文法の知識を備えていることが望ましいが、その知識がない人でも、ゼロからパーリ語原典を読む力をつけることは可能である。ただしそのためには、地道に不断の努力をすること、そして自分が分かったか、まだ分からないかの区別を明確にして、分かるまで学ぼうとする謙虚さと忍耐力が求められる。才気的な意味での知力よりも忍耐力、誠実さ、そしてポジティブ思考が重要である。逆に言えば、一年間、本授業で努力を続けることによって、初期仏典を原典で味わう第一歩を歩み出せるようになるばかりでなく、そうした忍耐力、誠実さなどが高まることが期待される。 ＜思考・判断の到達目標＞ パーリ語文法は、サンスクリット文法と関係が深く、「名詞の曲用と動詞の活用と不変化辞という三種の単語から文が構成されている」という基本構造は同じである。文法的な数に両数はなく単数と複数の２種類だけであるなど、概してサンスクリット文法よりは単純であるが、他方、文法的な形が一律的には定まらず、多様な形が許されるなど逆に難しい点もある。つまり、パーリ語の読解力を養成するには、パーリ語の文法的知識ばかりでなく、この文は何を言っているのだろうかを文脈などから判断する力が必須となる。本授業は初期仏典を原典で読むための基礎力を養うということが、最も直接的な目標であるが、広い視野から言えば、総じて読書力の基本となる思考力・判断力・忍耐力と高度な教養の養成・向上を目指している。 ＜実践的スキル・表現の到達目標＞ パーリ語仏典にある初期仏教文献を原典で理解するための基礎的な読解スキルを身につけ、かつその原典の解読内容についての自分なりの理解が表現できる能力を習得する。
	テキストの概要	(1)ジョバ・ラニ・ダシュ著『パーリ語文法―仏典の用例に学ぶ』（法蔵館　2021 年） (2)丸井作成の「パーリ語文法入門」（※スクーリング時に随時 pdf 配布／配信） (3) D.Andersen: Pali Reader with Notes and Glossary, 2 volumes, Indian edition (原本は Copenhagen, London and Leipzig,1901-1907)（※スクーリング時に随時 pdf 配信）

授業計画	本科目は、スクーリングとオンラインを併用する授業方法（ハイフレックス）で開講される。 スクーリングは、本学で毎週開催される１００分の対面授業を２８時限受講する。またオンラインは同じく毎週ズームによって発信される１００分のオンライン授業（対面授業と同時進行）を２８時限受講する。そしてほぼ毎回課される課題（練習問題の解答と撰文読解）を遂行することによって単位を取得する。 スクーリングは、本学で毎週開催される１００分の講義を２８時限受講し、試験に合格することで４単位を修得します。 〈スクーリング〉 第０１回　導入：パーリ語とは何か／パーリ語文法基礎入門（１） 第０２回　パーリ語文法基礎入門（２） 第０３回　パーリ語文法基礎入門（３） 第０４回　名詞（形容詞を含む）の曲用（＝格変化）①：-a/-ā 語幹の曲用 第０５回　前回説明した文法事項の理解定着のための練習問題の答え合わせ 第０６回　名詞（形容詞を含む）の曲用（＝格変化）②：-a/-ā 以外の母音で終わる語幹の曲用 第０７回　前回説明した文法事項の理解定着のための練習問題の答え合わせ 第０８回　名詞（形容詞を含む）の曲用（＝格変化）③：子音で終わる名詞語幹の曲用 第０９回　前回説明した文法事項の理解定着のための練習問題の答え合わせ 第１０回　代名詞の曲用（＝格変化）①：指示代名詞の曲用 第１１回　前回説明した文法事項の理解定着のための練習問題の答え合わせ 第１２回　代名詞の曲用（＝格変化）②：疑問代名詞・関係代名詞の曲用 第１３回　前回説明した文法事項の理解定着のための練習問題の答え合わせ 第１４回　予備日（前期終了） 第１５回　動詞（定動詞）の活用①：直説法現在活用の復習とアオリスト（過去時制）の活用 第１６回　前回説明した文法事項の理解定着のための練習問題の答え合わせ 第１７回　動詞（定動詞）の活用②：願望法と命令法の活用 第１８回　前回説明した文法事項の理解定着のための練習問題の答え合わせ 第１９回　動詞（定動詞）の活用③：直説法未来と条件法の活用 第２０回　前回説明した文法事項の理解定着のための練習問題の答え合わせ 第２１回　準動詞（現在分詞、過去分詞、不定詞など） 第２２回　前回説明した文法事項の理解定着のための練習問題の答え合わせ 第２３回　Pali Reader より Baka-Jātaka の読解① 第２４回　Pali Reader より Baka-Jātaka の読解② 第２５回　Pali Reader より Baka-Jātaka の読解③ 第２６回　Pali Reader より Baka-Jātaka の読解④ 第２７回　Pali Reader より Baka-Jātaka の読解⑤ 第２８回　予備日
成績評価の方法	単位認定試験

実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		中国思想特講
担当教員		遠藤　祐介
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	儒家や道家をはじめとする代表的な中国思想の概要を理解する。また諸子百家の思想に基づいて、各時代の思想家たちが独自の理論を構築し、哲学的あるいは宗教的な方法で真理の把捉を目指した様子や、彼らが目指した理想社会とは何かを理解し、中国思想と現代日本との接点をリアルに感じられるようになることを目指す。
	テキストの概要	なし
授業計画		本科目は、スクーリングだけの学習方法で開講されます。 スクーリングは、本学で開催される講義（１００分の講義を計２７時限）を受講し、試験に合格することで４単位を修得します。 〈スクーリング〉 第１回：中国哲学史の性質 第２回：中国哲学史の特徴 第３回：中国哲学史の研究方法 第４回：夏から西周の経済政治文化と思想 第５回：春秋時代の科学知識と思想 第６回：『易経』と『洪範』 第７回：上帝と鬼神 第８回：春秋時代における反神秘主義の思潮 第９回：事物と世界に対する認識 第 10 回：素朴な弁証法思想 第 11 回：管子の思想 第 12 回：老子思想の誕生 第 13 回：無為自然の思想 第 14 回：道の思想 第 15 回：小国寡民の社会思想 第 16 回：孔子における礼 第 17 回：克己復礼の思想 第 18 回：天命に対する信仰 第 19 回：孔子の教育観 第 20 回：戦国時代における生産力の向上と自然科学の進展 第 21 回：百家争鳴 第 22 回：墨子学派 第 23 回：兼愛、非攻の思想 第 24 回：天志と明鬼の思想 第 25 回：孟子における義と利

	第 26 回：性善説 第 27 回：尽心、知性、知天の思想		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		中国仏教特講（S）
担当教員		西本　照真
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	インドからもたらされた仏教の思想が中国に本格的に根を下ろし、中国的な仏教思想として成立してくるのは隋唐代以降といえます。本講義では、中国への仏教の伝播と展開について概観しつつ、中国仏教の普遍的特質と各宗派の思想の独自性について学びます。①レポート（R）では、中国仏教史の展開を押さえた上で、隋唐の実践的仏教の一宗派である三階教の思想と活動に焦点を当てて学んでいきます。②スクーリング（S）は、隋唐代に広く読まれた仏教文献、あるいは隋唐代に成立した仏教文献の中から重要なものを取り上げて講読します。令和２年度は、隋代の天台宗の文献で中国天台の大成者智顗が講義したものを弟子の灌頂がまとめたとされる『摩訶止観』を講読していく予定です。『摩訶止観』は、天台において仏道修行の根幹にすえる止観の実践について説いたテキストで、天台宗の思想と実践を理解する上で不可欠なものです。今年度は、『摩訶止観』の後半、巻第五（の上）の「正修」止観の箇所、十境十乗観法について輪読していきます。天台止観の中でも中心の一つに位置づけられる一念三千の止観など、天台の実践の核心を学ぶことになります。天台における止観の特質について理解を深めるとともに、中国仏教の止観の実践の展開の中でどのように位置づけられるか、明らかにしていくことができればと思います。
	テキストの概要	西本照真編『資料集（中国仏教特講）』武蔵野大学大学院通信教育部.
授業計画		スクーリングは本学で毎週開催される１００分の講義を２８時限受講し、試験に合格することで４単位を修得します。 第１章　中国仏教史（１）（異宗教としての仏教の伝来と普及） 第２章　中国仏教史（２）（統一国家と仏教） 第３章　（特論１）三階教の思想と実践 第４章　（特論２）三階教研究の方法論的アプローチ ＜スクーリング＞ 第１回　中国仏教の研究方法について、『摩訶止観』に関する概説 第２回～第 29 回　文献講読 第 30 回　まとめ
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
		担当教員の実務経験（経歴・資格等）
		授業内容との関連性

	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		中国仏教特講（R）
担当教員		西本　照真
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	インドからもたらされた仏教の思想が中国に本格的に根を下ろし、中国的な仏教思想として成立してくるのは隋唐代以降といえます。本講義では、中国への仏教の伝播と展開について概観しつつ、中国仏教の普遍的特質と各宗派の思想の独自性について学びます。①レポート（R）では、中国仏教史の展開を押さえた上で、隋唐の実践的仏教の一宗派である三階教の思想と活動に焦点を当てて学んでいきます。②スクーリング（S）は、隋唐代に広く読まれた仏教文献、あるいは隋唐代に成立した仏教文献の中から重要なものを取り上げて講読します。令和２年度は、隋代の天台宗の文献で中国天台の大成者智顗が講義したものを弟子の灌頂がまとめたとされる『摩訶止観』を講読していく予定です。『摩訶止観』は、天台において仏道修行の根幹にすえる止観の実践について説いたテキストで、天台宗の思想と実践を理解する上で不可欠なものです。今年度は、『摩訶止観』の後半、巻第五（の上）の「正修」止観の箇所、十境十乗観法について輪読していきます。天台止観の中でも中心の一つに位置づけられる一念三千の止観など、天台の実践の核心を学ぶことになります。天台における止観の特質について理解を深めるとともに、中国仏教の止観の実践の展開の中でどのように位置づけられるか、明らかにしていくことができればと思います。
	テキストの概要	西本照真編『資料集（中国仏教特講）』武蔵野大学大学院通信教育部.
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 第１章　中国仏教史（１）（異宗教としての仏教の伝来と普及） 第２章　中国仏教史（２）（統一国家と仏教） 第３章　（特論１）三階教の思想と実践 第４章　（特論２）三階教研究の方法論的アプローチ
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	

	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		近代仏教特講
担当教員		碧海　寿広
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	近代日本における仏教の変遷と、代表的な仏教者たちの思想について学ぶことで、仏教近代化の帰結としての現代仏教の特質を理解する。特に、日本仏教が近代に直面したがゆえに生じた問題と、その克服のために生まれてきた思想の可能性について、多面的に捉えられる見識の獲得を目指す。 ディプロマ・ポリシー「①仏教精神に則り学術の理論及び応用する能力を身につけていること」との関連性については、現代に生きる私たちにとって身近な近代の仏教について学習することで、仏教と現代世界とのかかわりを理論的・実践的に考える技術の習得が可能になる。
	テキストの概要	碧海寿広編（2018）『資料集（近代仏教特講）』武蔵野大学大学院通信教育部
	授業計画	本学で開催される１００分の講義（小テスト含む）を２８時限受講することで４単位を修得します。 〈スクーリング〉 第０１回：イントロダクション 第０２回：廃仏毀釈 第０３回：社会参加仏教 第０４回：戦争と仏教 第０５回：井上円了 第０６回：清沢満之 第０７回：近角常観 第０８回：親鸞と近代 第０９回：日蓮主義 第１０回：仏教メディア論 第１１回：近代仏教学 第１２回：日本仏教史 第１３回：仏教系大学 第１４回：高楠順次郎 第１５回：西田幾多郎 第１６回：葬式仏教 第１７回：巡礼と観光 第１８回：仏教民俗学 第１９回：古寺・仏像 第２０回：近代文学と仏教 第２１回：明治仏教の国際化

	第２２回：海外布教の歴史 第２３回：大谷光瑞 第２４回：鈴木大拙と禅（Zen） 第２５回：寺院仏教 第２６回：妻帯仏教 第２７回：瞑想ブームの背景 第２８回：試験		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		近代仏教特講（R）
担当教員		碧海　寿広
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	近代日本における仏教の変遷と、代表的な仏教者たちの思想について学ぶことで、仏教近代化の帰結としての現代仏教の特質を理解する。特に、日本仏教が近代に直面したがゆえに生じた問題と、その克服のために生まれてきた思想の可能性について、多面的に捉えられる見識の獲得を目指す。 ディプロマ・ポリシー「①仏教精神に則り学術の理論及び応用する能力を身につけていること」との関連性については、現代に生きる私たちにとって身近な近代の仏教について学習することで、仏教と現代世界とのかかわりを理論的・実践的に考える技術の習得が可能になる。
	テキストの概要	碧海寿広編（2018）『資料集（近代仏教特講）』武蔵野大学大学院通信教育部
授業計画		4 つのレポート（2 つの課題に対してそれぞれ 2 つのレポート）をすべて提出し、単位認定申請レポートに合格することで 4 単位を修得します。 〈自宅学習〉 ①「近代の仏教は、社会とどのように関わってきたのかを論じなさい」（資料集第 1 章参照） ②「近代仏教の思想について、その内容と現代的な意義を論じなさい」（資料集第 2 章参照） ③「近代の学者が、日本仏教をどう評価してきたのかを論じなさい」（資料集第 3 章参照） ④「近代の文化のなかで、仏教がいかに扱われてきたのかを論じなさい」（資料集第 4 章参照） ⑤「近代の仏教者が、海外の人々とどう関わってきたのかを論じなさい」（資料集第 5 章参照） ⑥「現代の仏教が直面している問題と、その解決策について論じなさい」（資料集第 6 章参照）
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	

	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		東南アジア仏教特講
担当教員		山田　均
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	東南アジア・スリランカに行われている上座部仏教について、その教理、実践、社会との関係など総合的な知識を獲得し、振り返って日本の仏教についての理解を深める一助を得ること。
	テキストの概要	なし
授業計画		本学で毎週行われる１００分の講義を２８回受講し、試験に合格することで４単位を取得します。 〈スクーリング〉 第 01 回：イントロダクション 第 02 回：上座部仏教の歴史（インド） 第 03 回：上座部仏教の歴史（スリランカ） 第 04 回：上座部仏教の歴史（ミャンマー） 第 05 回：上座部仏教の歴史（タイ） 第 06 回：上座部仏教の歴史（カンボジア、ラオス、雲南省） 第 07 回：上座部仏教の教団生活 第 08 回：上座部仏教の教団生活 第 09 回：上座部仏教の教団生活 第 10 回：上座部仏教の教団生活 第 11 回：上座部仏教の在家信者生活 第 12 回：上座部仏教の在家信者生活 第 13 回：上座部仏教の在家信者生活 第 14 回：まとめ 第 15 回：上座部仏教と芸術（仏塔） 第 16 回：上座部仏教と芸術（絵画） 第 17 回：上座部仏教と芸術（仏像） 第 18 回：上座部仏教と芸術（文学・芝居） 第 19 回：上座部仏教と国家・教育 第 20 回：上座部仏教と国家・教育 第 21 回：上座部仏教と国家・教育 第 22 回：上座部仏教と国家・教育 第 23 回：まとめ 第 24 回：上座部仏教と民間信仰（祖霊信仰） 第 25 回：上座部仏教と民間信仰（超能力僧） 第 26 回：上座部仏教と民間信仰（呪術） 第 27 回：上座部仏教と民間信仰（その他）

	第 28 回：まとめ		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		外国語仏教文献講読
担当教員		A. チャールズ・ミュラー
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	英語で仏教について話せるようになる為、英語の仏教書を読む。
	テキストの概要	なし
授業計画		スクーリングは、本学で毎週開催される１００分の講義を２８時限受講し、試験に合格することで４単位を修得します。 〈スクーリング〉 第 1～28 回　Buddhist Thought を読んで、内容を議論する
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		浄土教特講（Ｓ）
担当教員		石上　和敬・前田　壽雄
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本講義では、インドから東アジアに広く伝播した、阿弥陀仏を信仰対象とする浄土教の概要について、＜無量寿経＞、＜阿弥陀経＞、そして『観無量寿経』という三つの経典の所説に拠りながら確認していく。これら三経典を「浄土三部経」と総称されているが、この名称は法然の『選択本願念仏集』に始まり、親鸞によって受け継がれたものである。 ①レポート（Ｒ）では、上記の三経典を読解していくための基本思想として、阿弥陀仏と本願について理解する。その上で親鸞がこれら三経典をどのように受容しているのかを考察する。 ②スクーリング（Ｓ）では、上記の三経典の講読が講義の中心となる。（詳細は「スクーリングの講義内容」を参照のこと。
	テキストの概要	なし
	授業計画	スクーリングは、本学で開催される講義（１００分の講義を計２７時限）を受講し、試験に合格することで４単位を修得します。 〈スクーリング〉 第１回　イントロダクション 第２回　＜無量寿経＞文献資料の概要① 第３回　同② 第４回　＜阿弥陀経＞文献資料の概要 第５回　『観無量寿経』文献資料の概要 第６回　浄土教の基本思想①　阿弥陀仏 第７回　同②　本願 第８回　同③　浄土 第９回　同④　往生 第 10 回　同⑤　念仏 第 11 回　＜無量寿経＞読解① 第 12 回　同② 第 13 回　同③ 第 14 回　同④ 第 15 回　同⑤ 第 16 回　同⑥ 第 17 回　同⑦ 第 18 回　同⑧ 第 19 回　同⑨ 第 20 回　同⑩

	第 21 回　同⑪ 第 22 回　同⑫ 第 23 回　＜阿弥陀経＞読解① 第 24 回　同② 第 25 回　同③ 第 26 回　『観無量寿経』読解① 第 27 回　同② 第 28 回　同③		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		浄土教特講（R）
担当教員		石上　和敬・前田　壽雄
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本講義では、インドから東アジアに広く伝播した、阿弥陀仏を信仰対象とする浄土教の概要について、＜無量寿経＞、＜阿弥陀経＞、そして『観無量寿経』という三つの経典の所説に拠りながら確認していく。これら三経典を「浄土三部経」と総称されているが、この名称は法然の『選択本願念仏集』に始まり、親鸞によって受け継がれたものである。 ①レポート（R）では、上記の三経典を読解していくための基本思想として、阿弥陀仏と本願について理解する。その上で親鸞がこれら三経典をどのように受容しているのかを考察する。 ②スクーリング（S）では、上記の三経典の講読が講義の中心となる。（詳細は「スクーリングの講義内容」を参照のこと。
	テキストの概要	前田壽雄編『資料集（浄土教特講）』武蔵野大学大学院通信教育部.
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 資料１　藤田宏達「浄土三部経の思想と解釈」（『浄土三部経の研究』、岩波書店、2007年） 資料２　村上速水「三部経の教え」（『親鸞教義とその背景』、永田文昌堂、1987 年） 資料３　浅井成海「教文類」解説（『教行信証』の研究 第一巻 『『顕浄土真実教行証文類』解説論集』、 浄土真宗本願寺派総合研究所監修、2012 年） 資料４　前田壽雄「親鸞における法蔵菩薩の修行とその現代的意義」（『慈光法喜 武田龍精先生喜寿記念』法喜会編、2017 年）
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	

	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		東南アジア仏教特講（R）
担当教員		山田　均
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	東南アジア・スリランカに行われている上座部仏教について、その教理、実践、社会との関係など総合的な知識を獲得し、振り返って日本の仏教についての理解を深める一助を得ること。
	テキストの概要	なし
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 ①上座部仏教の僧と在家の関係について ②上座部仏教の信仰の内容について ③上座部仏教は日本で布教できるか
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		真宗概論（Ｓ）
担当教員		前田　壽雄
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	親鸞が開顕した浄土真宗を研究対象とする学問を「真宗学」という。親鸞が顕した「浄土真宗」とは、宗派や教団を意味するのではなく、往生浄土を説く真実の教である。すなわち、真実の教である『大無量寿経』に説かれた阿弥陀仏の選択本願を指し、具体的には他力の念仏成仏の教えをいう。その教えは、親鸞の主著である『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』、『教行証文類』）に組織体系化されている。 『教行信証』とは、浄土三部経（『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』）や七高僧（龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導・源信・源空）の著述を中心として、さまざまな浄土往生に関する経論釈の要文を集めた文類の形式を採用したうえに、親鸞が自釈を施した畢生の大著である。そこには親鸞自身の深遠な思索とそれを裏づけた宗教体験が結実されている。 本科目では、親鸞浄土教における重要な用語を手がかりとして、『教行信証』をはじめ、親鸞の他の漢語・和語聖教を読解することで、浄土真宗とは如何なる仏教であるのかを理解していく。そのうえで真宗教義の根拠を明確に押さえつつ、自分なりに咀嚼して、わかりやすく解説できる能力を修得することを目標とする。
	テキストの概要	前田壽雄編『資料集（真宗概論）』武蔵野大学大学院通信教育部. ＊レポート作成のための教材資料であり、市販していません。スクーリングでは別途資料を配布して講義を行うこともあります。また、通学制との合同授業（Ｓ）の場合、別途参考資料として、テキストを購入していただくこともあります。
	授業計画	スクーリングは本学で毎週開催される原則１００分の講義を ２８時限受講し、試験に合格することで４単位を修得します。 〈スクーリング〉 第 01 回　浄土真宗 第 02 回　『教行信証』の概要 第 03 回　真実の願と方便の願 第 04 回　＜無量寿経＞と親鸞 第 05 回　正信念仏偈（依経段） 第 06 回　正信念仏偈（依釈段） 第 07 回　龍樹と親鸞―難易二道 第 08 回　天親と親鸞―宣布一心 第 09 回　曇鸞と親鸞―顕示他力① 第 10 回　曇鸞と親鸞―顕示他力② 第 11 回　曇鸞と親鸞―顕示他力③ 第 12 回　曇鸞と道綽―念仏思想の展開

	第 13 回　道綽と親鸞―聖浄二門 第 14 回　善導と親鸞―古今楷定① 第 15 回　善導と親鸞―古今楷定② 第 16 回　善導と親鸞―古今楷定③ 第 17 回　源信と親鸞―報化二土 第 18 回　源信の念仏と臨終来迎思想の展開 第 19 回　源空と親鸞―選択本願① 第 20 回　源空と親鸞―選択本願② 第 21 回　『教行信証』「信巻」の意義 第 22 回　「信巻」＜無量寿経＞引文・曇鸞引文（二不知三不信・讃阿弥陀仏偈） 第 23 回　至誠心釈、深心釈 第 24 回　回向発願心釈、二河譬 第 25 回　三一問答 字訓釈 第 26 回　至心釈 第 27 回　信楽釈、欲生釈 第 28 回　正定聚の機、まとめ		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		○
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	（前田　壽雄先生　職歴）築地本願寺新報編集委員 浄土真宗本願寺派総合研究所上級研究員	
	授業内容との関連性	浄土真宗本願寺派の研究所にて活動していた教員が、仏教学の専門知識を真宗学の観点を中心として、解説する。	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		真宗概論（R）
担当教員		前田　壽雄
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	親鸞が開顕した浄土真宗を研究対象とする学問を「真宗学」という。親鸞が顕した「浄土真宗」とは、宗派や教団を意味するのではなく、往生浄土を説く真実の教である。すなわち、真実の教である『大無量寿経』に説かれた阿弥陀仏の選択本願を指し、具体的には他力の念仏成仏の教えをいう。その教えは、親鸞の主著である『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』、『教行証文類』）に組織体系化されている。 『教行信証』とは、浄土三部経（『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』）や七高僧（龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導・源信・源空）の著述を中心として、さまざまな浄土往生に関する経論釈の要文を集めた文類の形式を採用したうえに、親鸞が自釈を施した畢生の大著である。そこには親鸞自身の深遠な思索とそれを裏づけた宗教体験が結実されている。 本科目では、親鸞浄土教における重要な用語を手がかりとして、『教行信証』をはじめ、親鸞の他の漢語・和語聖教を読解することで、浄土真宗とは如何なる仏教であるのかを理解していく。そのうえで真宗教義の根拠を明確に押さえつつ、自分なりに咀嚼して、わかりやすく解説できる能力を修得することを目標とする。
	テキストの概要	前田壽雄編『資料集（真宗概論）』武蔵野大学大学院通信教育部.
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 資料１　桐溪順忍『親鸞はなにを説いたか』（教育新潮社、1964 年）第四章　親鸞の仏教観―教相判釈― 資料２　浅井成海『法然とその門弟の教義研究―法然の基本教義の継承と展開―』（永田文昌堂、2004 年） 第二章　法然とその門弟の本願論　第四節　親鸞の本願論 資料３　梯　實圓『教行信証の宗教構造―真宗教義体系―』（法藏館、2001 年）第四章　真実の行 資料４　梯　實圓『教行信証の宗教構造―真宗教義体系―』（法藏館、2001 年）第六章　真実の信 資料５　前田壽雄「親鸞における智慧」（ケネス田中編、『智慧の潮―親鸞の智慧・主体性・社会性　Shinshu Theology から見えてくる新しい水平線』、武蔵野大学出版会、2017 年） 資料６　浅井成海『法然とその門弟の教義研究―法然の基本教義の継承と展開―』（永田文昌堂、2004 年） 第三章　法然とその門弟の菩提心論　第四節　親鸞の菩提心論

	資料７　前田壽雄「親鸞における正定聚論」（『人間学研究論集』第 2 号、武蔵野大学通信教育部、2012 年） 資料８　前田壽雄「親鸞聖人における来迎の問題」（『宗学院論集』第 78 号、浄土真宗本願寺派宗学院、2002 年）		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		○
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	（前田　壽雄先生　職歴）築地本願寺新報編集委員 浄土真宗本願寺派総合研究所上級研究員	
	授業内容との関連性	浄土真宗本願寺派の研究所にて活動していた教員が、仏教学の専門知識を真宗学の観点を中心として、解説する。	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		真宗学特講
担当教員		梯　信暁
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	真宗教理学の立場から、日本における阿弥陀仏信仰の展開と親鸞教学の特徴に関する知識、ならびに漢文資料の解読に必要な能力を身につけます。
	テキストの概要	梯 信暁 『インド・中国・朝鮮・日本 浄土教思想史』（法藏館）
授業計画		本科目は、スクーリングの学習方法で開講されます。　スクーリングは、本学で開催される講義（１００分の講義を計２７時限）を受講し、試験に合格することで４単位を修得します。 〈スクーリング〉 第１回　日本の浄土教概観 第２回　浄土教の伝来と流布 第３回　奈良時代の阿弥陀仏信仰 第４回　平安初中期の阿弥陀仏信仰 第５回　臨終来迎信仰の形成 第６回　臨終来迎信仰の教理（資料講読） 第７回　叡山浄土教の興起 第８回　叡山浄土教の典籍 第９回　『往生要集』の大綱 第 10 回　『往生要集』の教理（資料講読） 第 11 回　院政期の阿弥陀仏信仰（資料講読） 第 12 回　院政期の浄土教典籍 第 13 回　法然教学の特徴 第 14 回　『選択本願念仏集』の教理（資料講読） 第 15 回　法然門下の教学 第 16 回　弁長と鎮西義（資料講読） 第 17 回　証空と西山義（資料講読） 第 18 回　親鸞教学の特徴 第 19 回　『教行証文類』の大綱（資料講読） 第 20 回　『教行証文類』の教理（資料講読） 第 21 回　『教行証文類』の教理（資料講読） 第 22 回　『教行証文類』の教理（資料講読） 第 23 回　『教行証文類』の教理（資料講読） 第 24 回　『教行証文類』の教理（資料講読） 第 25 回　『教行証文類』の教理（資料講読） 第 26 回　『歎異抄』の教理（資料講読） 第 27 回　『歎異抄』の教理（資料講読）

	第 28 回　真宗教理学総まとめ		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		比較宗教特論
担当教員		寺田　喜朗
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	様々な宗教の成立・展開の過程を社会・文化的観点から辿り、それぞれの宗教の特性と共通性を明らかにすることを目的とする。1～14 回は、アニミズムやシャーマニズム等の原始宗教、ユダヤ教、キリスト教、イスラームについて、15～28 回目は、日本の神道、仏教、および民俗宗教や新宗教について、信念体系・儀礼実践・組織構造の観点から鳥瞰する。それぞれの宗教がそれぞれの社会・時代において果たしてきた役割・機能を考え、人々の価値観や社会生活に与える影響を考察する。
	テキストの概要	本科目はスクーリングだけの開講であるため、資料集は配布しません。
授業計画		スクーリングは、本学で開催される集中講義（１００分の講義を２８時限）を受講し、試験に合格することで４単位を修得します。 〈スクーリング〉 第 01 回　イントロダクション　：「宗教」という概念について考える 第 02 回　宗教学の鍵概念①　：アニミズム・マナ・トーテミズム 第 03 回　宗教学の鍵概念②　：シャーマニズム 第 04 回　原始宗教と神話　：神話の分布やモチーフについて概観する 第 05 回　原始社会における宗教　：農耕儀礼と宗教 第 06 回　世界宗教の理解／ユダヤ・キリスト教①　：ユダヤ教の成立と展開について概観する 第 07 回　世界宗教の理解／ユダヤ・キリスト教②　：ユダヤ教の成立と展開について概観する 第 08 回　世界宗教の理解／キリスト教③　：キリスト教の成立と展開について概観する 第 09 回　世界宗教の理解／キリスト教④：キリスト教の成立と展開について概観する 第 10 回　世界宗教の理解／キリスト教⑤　：キリスト教の成立と展開について概観する 第 11 回　世界宗教の理解／イスラーム①　：イスラームの成立と展開について概観する 第 12 回　世界宗教の理解／イスラーム②　：イスラームの成立と展開について概観する 第 13 回　世界宗教の理解／イスラーム③　：イスラームの成立と展開について概観する 第 14 回　世界宗教の理解／前半のまとめ 第 15 回　日本宗教の理解／神祇信仰と神道①　：神道の成立と展開について概観する 第 16 回　日本宗教の理解／神祇信仰と神道②　：神道の成立と展開について概観する 第 17 回　日本宗教の理解／飛鳥・奈良時代の仏教　：仏教伝来と鎮護国家 第 18 回　日本宗教の理解／平安時代の仏教①　：最澄と天台宗について概観する 第 19 回　日本宗教の理解／平安時代の仏教②　：空海と真言宗について概観する 第 20 回　日本宗教の理解／鎌倉時代の仏教①　：法然と浄土宗について概観する 第 21 回　日本宗教の理解／鎌倉時代の仏教②　：栄西・道元と臨済禅・曹洞禅について概観する

	第 22 回　日本宗教の理解／鎌倉時代の仏教③　：親鸞と日蓮について概観する 第 23 回　日本宗教の理解／中世の仏教　：権門体制・顕密体制と神仏習合について概観する 第 24 回　日本宗教の理解／近世の宗教　：江戸幕府の宗教政策とイエと村の宗教 第 25 回　日本宗教の理解／近代における宗教①　：神仏判然令と切支丹解禁 第 26 回　日本宗教の理解／近代における宗教②　：三条の教則と大教院制度 第 27 回　日本宗教の理解／近代における宗教③　：新宗教の多様性 第 28 回　日本宗教の理解／まとめ		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		人間倫理特論
担当教員		一ノ瀬　正樹・高橋　晃一
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	他者とともに社会を構築して生きる個人の諸問題を考えるうえで重要な、(1)死生の問題、(2)他者問題について、諸立場について一定の理解をうるとともに、問題に向かう基本的姿勢を培うことを目指す。具体的事例として、(3)仏教思想においてこの問題がいかに捉えられるかを、他の宗教や思想と比較しつつ理解する。
	テキストの概要	なし
授業計画		スクーリングは、本学で開催される集中講義（１００分の講義を計２８時限）を受講し、試験に合格することで４単位を修得します。 〈スクーリング〉 （前半）（一ノ瀬担当） 第１講(1-5 時限)　倫理学の基礎となる義務、功利、権利、所有などについて検討する。 第２講(6-10 時限)　死刑存廃論、安楽死、死ぬ権利など、具体的問題を論じる。 第３講(11-15 時限)　引き続き、生殖医療の問題、戦争倫理、動物倫理などを取り上げる。 （後半）（高橋担当） 第４講(15-19 時限)　初期仏教からアビダルマまで思想を概観する。 第５講(20-24 時限)　大乗経典および中観、唯識思想に見られる人間観について考察する。 第６講(25-28 時限)　空や無我という観念と倫理思想の関係を考察する。
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	

備考	

科目名		西洋思想特講（ＳＲ）
担当教員		富山　豊
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	「自ら哲学的に考える」と言っても、手掛かりなしにはどのように「考え」ればよいのかなかなかわからないものです。そのため、まずは過去の議論や学説を正しく理解してもらうことを目指します。その上で、それぞれの議論や学説にどのような長所や短所があるのか、自分で様々な具体例を考えながら検討できるようになることが目標です。
	テキストの概要	なし
授業計画		スクーリングとレポートを合わせて４単位を修得します。スクーリングは本学で開催される原則１００分の講義を１４時限受講し、試験に合格することで２単位を修得し、レポートは２つのレポート（１つの課題に対して２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章 意味 第２章 知識 第３章 倫理 第４章 心と自己 〈スクーリング〉 第 01 回：　言葉の意味とは何か：指示対象説・観念説・辞書説 第 02 回：　使用説と真理条件意味論 第 03 回：　検証主義的意味論 第 04 回：　自然主義的意味論 第 05 回：　知識とは何か：デカルトの方法的懐疑 第 06 回：　知識の古典的定義とゲティア反例 第 07 回：　因果説・信頼性主義・ドレツキの知識論 第 08 回：　ノージックの知識論 第 09 回：　倫理とは何か：功利主義 第 10 回：カント倫理学 第 11 回：規則功利主義・社会契約説 第 12 回：心と自己：心身二元論と心身因果 第 13 回：ハイデガーの自己理論 第 14 回：まとめ
成績評価の方法		単位認定試験
		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目

実践的教育を行う授業科目の種別	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		西洋思想特講（R）
担当教員		富山　豊
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	「自ら哲学的に考える」と言っても、手掛かりなしにはどのように「考え」ればよいのかなかなかわからないものです。そのため、まずは過去の議論や学説を正しく理解してもらうことを目指します。その上で、それぞれの議論や学説にどのような長所や短所があるのか、自分で様々な具体例を考えながら検討できるようになることが目標です。
	テキストの概要	なし
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章 意味 第２章 知識 第３章 倫理 第４章 心と自己
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		仏教文化特講（ＳＲ）
担当教員		下野　玲子・種村　隆元
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	この「仏教文化特講」では、仏教における文化的側面、その中でも仏教儀礼と仏教美術について掘り下げて学習してくことになります。 第１部の仏教儀礼では、インド密教における「プラティシュター」と呼ばれる尊像奉納儀礼を題材に取り上げ、その儀礼の概要、特色、さらに儀礼の社会的背景や教理との関係についての考察を通して、儀礼に対するアプローチの一例を紹介していきます。そしてこのプラティシュター儀礼の考察を通して、各自が儀礼を理論化し、それを他の分野に適用する応用力を養うことを目指します。 第２部の仏教美術では、平安時代後期の貴族・大江親通が著した『七大寺日記』を読み、仏典その他の文献または図像を用いて、仏教美術をどのように解釈するかを学んでゆきます。日本の仏教美術史研究における基礎的な方法を経験することにより、学術の理論と応用力を身につけることを目指します。
	テキストの概要	種村隆元・下野玲子編（2012）『資料集（仏教文化特講）』武蔵野大学大学院通信教育部
授業計画		スクーリングとレポートを合わせて４単位を修得します。スクーリングは本学で開催される１００分の講義を１４時限受講し、試験に合格することで２ 単位を修得し、レポートは２つのレポート（１つの課題に対して２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 第 01 回：仏教儀礼１　インド密教について 第 02 回：仏教儀礼２　インド密教におけるプラティシュター儀礼について(1) 第 03 回：仏教儀礼３　インド密教におけるプラティシュター儀礼について(2) 第 04 回：仏教儀礼４　『ヴァジラーヴァリー』プラティシュター章を読む 第 05 回：仏教儀礼５　『ヴァジラーヴァリー』プラティシュター章を読む 第 06 回：仏教儀礼６　『所作集註』プラティシュター章を読む 第 07 回：仏教儀礼分野試験および解説 第 08 回：仏教美術１　『七大寺日記』と関連資料について 第 09 回：仏教美術２　『七大寺日記』前文と東大寺条を読む 第 10 回：仏教美術３　『七大寺日記』前文と東大寺条を読む 第 11 回：仏教美術４　『七大寺日記』東大寺条を読む 第 12 回：仏教美術５　『七大寺日記』東大寺条を読む 第 13 回：仏教美術６　『七大寺日記』東大寺条と美術の復原的考察 第 14 回：仏教美術分野試験および解説 〈自宅学習〉 第 1 部 仏教儀礼

	第１章 密教儀礼の資料 第２章 尊像奉納儀礼の概要 第３章 （特論１）『所作集註』の尊像奉納儀礼に見られる「十の儀礼」とその背景について 第４章 （特論 2）インド密教における尊蔵奉納儀礼の意味―9 種類の灌頂に関するアバヤーカラグプタの議論― 第２部 仏教美術 第１章 『七大寺日記』東大寺条の読解と東大寺美術の研究 第２章 東大寺美術の研究史		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		仏教文化特講（R）
担当教員		下野　玲子・種村　隆元
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	この「仏教文化特講」では、仏教における文化的側面、その中でも仏教儀礼と仏教美術について掘り下げて学習してくことになります。 第１部の仏教儀礼では、インド密教における「プラティシュター」と呼ばれる尊像奉納儀礼を題材に取り上げ、その儀礼の概要、特色、さらに儀礼の社会的背景や教理との関係についての考察を通して、儀礼に対するアプローチの一例を紹介していきます。そしてこのプラティシュター儀礼の考察を通して、各自が儀礼を理論化し、それを他の分野に適用する応用力を養うことを目指します。 第２部の仏教美術では、平安時代後期の貴族・大江親通が著した『七大寺日記』を読み、仏典その他の文献または図像を用いて、仏教美術をどのように解釈するかを学んでゆきます。日本の仏教美術史研究における基礎的な方法を経験することにより、学術の理論と応用力を身につけることを目指します。
	テキストの概要	種村隆元・下野玲子編（2012）『資料集（仏教文化特講）』武蔵野大学大学院通信教育部
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１部 仏教儀礼 第１章 密教儀礼の資料 第２章 尊像奉納儀礼の概要 第３章 （特論１）『所作集註』の尊像奉納儀礼に見られる「十の儀礼」とその背景について 第４章 （特論 2）インド密教における尊蔵奉納儀礼の意味―9 種類の灌頂に関するアバヤーカラグプタの議論― 第２部 仏教美術 第１章 『七大寺日記』東大寺条の読解と東大寺美術の研究 第２章 東大寺美術の研究史
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
		担当教員の実務経験（経歴・資格等）
		授業内容との関連性

	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		真宗史（Ｓ）（院）
担当教員		岡村　喜史
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	① 真宗史に関する専門的知識を修得する。 ② 講義内容を踏まえて、自身で独自の課題や疑問点を導き出し、それに取り組むようにする。
	テキストの概要	岡村喜史編（2022）『資料集（真宗史）』武蔵野大学通信教育部。 スクーリングの方々は、スクーリング時に資料を配布して講義を行います。 ※浄土真宗本願寺派教師資格を取得する場合は、『浄土真宗本願寺派 僧侶教本Ａ』（本願寺出版社）および 『浄土真宗本願寺派 僧侶教本Ｂ』（本願寺出版社）を必読するようお願いします。
授業計画		スクーリングは本学で開催される集中講義（１００分の講義を計２８時限）を受講し、試験に合格することで４単位を修得します。 〈スクーリング〉 第１回：オリエンテーション 講義の概要と進め方 第２回：親鸞伝の基礎 史料と研究 第３回：日本仏教の変遷 既成教団の概要 第４回：親鸞の出自と系譜 親鸞誕生の背景 第５回：親鸞の出家 出家の状況 第６回：天台僧としての親鸞 比叡山での親鸞 第７回：専修念仏への帰入 六角堂参籠について 第８回：法然門下の親鸞 専修念仏を修する 第９回：流罪 念仏弾圧と越後流罪 第 10 回：親鸞の結婚 僧侶の結婚の意義 第 11 回：親鸞の関東移住 越後から関東へ 第 12 回：関東での親鸞

	門弟の誕生と広がり 第 13 回：帰洛 親鸞の帰洛と帰洛後の生活 第 14 回：描かれた親鸞像 親鸞像の分析 第 15 回：親鸞廟堂 親鸞の廟所とその整備 第 16 回：留主職 廟堂留主職の成立と継承 第 17 回：覚如 覚如の事績と廟堂の寺院化 第 18 回：蓮如の誕生 覚如以降の本願寺と蓮如 第 19 回：蓮如の活動 本願寺継職と吉崎御坊 第 20 回：晩年の蓮如 山科本願寺の再興と大坂坊 第 21 回：大坂本願寺 大坂本願寺の実情と寺内町 第 22 回：「石山合戦」 織田信長と戦国大名 第 23 回：豊臣秀吉と本願寺 本願寺の移転 第 24 回：本願寺の東西分派 徳川家康と教如 第 25 回：江戸時代の西本願寺教団 教団の展開と三代法論 第 26 回：近代以降の西本願寺教団 宗議会の成立と戦後の歩み 第 27 回：真宗美術 初期真宗美術の意義 第 28 回：講義のまとめ（試験）
成績評価の方法	単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）
	授業内容との関連性
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目

	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		真宗史（R）（院）
担当教員		岡村　喜史
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	① 真宗史に関する専門的知識を修得する。 ② 講義内容を踏まえて、自身で独自の課題や疑問点を導き出し、それに取り組むようにする。
	テキストの概要	岡村喜史編（2022）『資料集（真宗史）』武蔵野大学通信教育部。 スクーリングの方々は、スクーリング時に資料を配布して講義を行います。 ※浄土真宗本願寺派教師資格を取得する場合は、『浄土真宗本願寺派 僧侶教本Ａ』（本願寺出版社）および 『浄土真宗本願寺派 僧侶教本Ｂ』（本願寺出版社）を必読するようお願いします。
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格して単位認定申請のレポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　親鸞の生涯を学ぶ 第２章　本願寺の成立 第３章　蓮如と本願寺教団 第４章　戦国期以降の本願寺教団
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		真宗文献講読
担当教員		田中　教照
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	到達目標は、漢文の文献を読めること。様々な文献を原点にさかのぼって理解できること。宗教経験について理解できること。自分の考えを論理的に分かり易く表現できること、です。
	テキストの概要	なし
授業計画		本科目は、スクーリングだけの学習方法で開講されます。 １００分の講義を２８時限受講し、試験に合格することで４単位を修得します。 〈スクーリング〉 第 1 回：『教行信証』行巻の出体出願 第 2 回：異訳の願文の比較研究 第 3 回：『平等覚経』の講読 第 4 回：称名破滿 第 5 回：『十住毘婆沙論』の講読（1） 第 6 回：『十住毘婆沙論』の講読（2） 第 7 回：『十住毘婆沙論』の講読（3） 第 8 回：『十住毘婆沙論』の講読（4） 第 9 回：「念仏の功」、論註の講読 第 10 回：論註の講読（2） 第 11 回：「念仏三昧」、『安楽集』の講読 第 12 回：聞名の徳、『讃阿弥陀仏偈』以下の講読 第 13 回：善導大師の諸書の講読（1） 第 14 回：善導大師の諸書の講読（2） 第 15 回：六字釈 第 16 回：『法事讃』の講読 第 17 回：『述文賛』の講読 第 18 回：『楽邦文類』の講読 第 19 回：元照律師以下諸師の講読 第 20 回：『往生要集』の講読 第 21 回：行信利益、両重因縁の研究 第 22 回：一念について 第 23 回：大行釈結嘆 第 24 回：他力釈、論註の講読 第 25 回：一乗海釈、『涅槃経』の講読 第 26 回：一乗海釈、『論註』の講読

	第 27 回：一乗嘆徳 第 28 回：まとめ		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		発達心理学特講（R）
担当教員		今福　理博
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	遺伝要因と環境要因の影響について、「両方とも大切」というような表層的な理解ではなく、学問的に正確に理解することが目標です。
	テキストの概要	高橋晃編『資料集（発達心理学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　発達における生得的要因 第２章　子どもと映像メディア 第３章　文化の中の子ども 第４章　日米の子ども向け映画に関する文献
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		認知心理学特講（ＳＲ）
担当教員		栗山　直子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本講義では、身体と外界認知に関する基礎と新たな研究知見を紹介しながら、それに神経疾患が与える影響を考え、私たちの意識が複雑な認知過程を背景にしていることの理解を深めることを目標とします。
	テキストの概要	新美亮輔編『資料集（認知心理学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部
授業計画		スクーリングとレポートを合わせて４単位を修得します。スクーリングは本学で集中開催される１００分の講義を１４時限受講し、試験に合格することで２単位を修得し、レポートは２つのレポート（１つの課題に対して２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 第 01 回 認知とは？ 第 02 回 学習と行動 第 03 回 認知の発達 第 04 回 記憶 第 05 回 視覚情報処理とイメージ 第 06 回 推論 第 07 回 問題解決 第 08 回 言語 第 09 回 意思決定 第 10 回 コミュニケーション 第 11 回 体性感覚・感覚間統合と身体表象 第 12 回 神経疾患による身体表象の変容 第 13 回 脳損傷による認知の変容 第 14 回 試験 〈自宅学習〉 【資料 01】「認知科学とは何か」 【資料 02】「学習心理学の歴史」 【資料 03】「注意とは何か」 【資料 04】「注意研究の進展」 【資料 05】「短期記憶と作動記憶」 【資料 06】「読みとワーキングメモリ容量―日本語版リーディングスパンテストによる測定―」 【資料 07】「物を認識するしくみ：視覚物体認識」 【資料 08】「視覚物体認知における上位概念と表面特徴の影響」 【資料 09】「新生児の初期視覚認知」

	【資料 10】「脳損傷にみる意識」 【資料 11】子どもの類推の発達-関係類似性に基づく推論- 【資料 12】類似性と近接性-人間の認知の特徴について-		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		認知心理学特講（R）
担当教員		栗山　直子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本講義では、身体と外界認知に関する基礎と新たな研究知見を紹介しながら、それに神経疾患が与える影響を考え、私たちの意識が複雑な認知過程を背景にしていることの理解を深めることを目標とします。
	テキストの概要	新美亮輔編『資料集（認知心理学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 【資料 01】「認知科学とは何か」 【資料 02】「学習心理学の歴史」 【資料 03】「注意とは何か」 【資料 04】「注意研究の進展」 【資料 05】「短期記憶と作動記憶」 【資料 06】「読みとワーキングメモリ容量―日本語版リーディングスパンテストによる測定―」 【資料 07】「物を認識するしくみ：視覚物体認識」 【資料 08】「視覚物体認知における上位概念と表面特徴の影響」 【資料 09】「新生児の初期視覚認知」 【資料 10】「脳損傷にみる意識」 【資料 11】子どもの類推の発達-関係類似性に基づく推論- 【資料 12】類似性と近接性-人間の認知の特徴について-
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	

	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		人格心理学特講（ＳＲ）
担当教員		高橋　恵理子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	到達目標は、心理学の歴史におけるパーソナリティ研究の位置づけと発展の歴史を踏まえて、パーソナリティについて、その定義、理論、測定法、研究法、変容の方法等について、幅広い知識を習得することである。パーソナリティという複雑で多面的な概念について、心理学という学問の立場から、柔軟に、かつ科学的に理解し、日常においても自分や他者を理解する際に役立ててほしい。
	テキストの概要	なし
授業計画		スクーリングとレポートを合わせて４単位を修得する。スクーリングは、本学で開催される原則１００分の講義を１４時限受講し、試験に合格することで２単位を修得する。レポートは、２つのレポート（１つの課題に対して２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得する。 〈自宅学習〉 資料集１　宮本浩紀　『信州豊南短期大学紀要』　2015 年　p.45-647 資料集２　小塩真司　『Japanese Psychological Review』　2016 年　Vol. 59　No. 1 資料集３　村山航　『The Annual Report of Educational Psychology』　2012 年　Vol. 51　p.118-130 資料集４　小塩真司・阿部晋吾・カトローニ・ピノ　『パーソナリティ研究』　2012 年　Vol. 21　No. 1　p.40-52 資料集５　国里愛彦・山口陽弘・鈴木伸一　『パーソナリティ研究』　2008 年　Vol. 16　No. 3　p.324-334 資料集６　安保恵理子・須賀千奈・根建金男　『パーソナリティ研究』　2012 年　Vol. 20　No. 3　p.155-166 資料集７　阿部ひと美・今井正司・根建金男　『パーソナリティ研究』　2013 年　Vol. 21　No. 3　p.203-215 資料集８　宮川充司　『椙山女学園大学教育学部紀要』　2012 年　Vol. 5　p.107-114 〈スクーリング〉 第０１回　イントロダクション 第０２回　パーソナリティとは 第０３回　パーソナリティに関する諸理論 第０４回　パーソナリティのアセスメント法 第０５回　パーソナリティの自己分析 第０６回　Cloninerの気質・性格モデル 第０７回　Big Five モデル 第０８回　認知行動理論 第０９回　パーソナル・コンストラクト理論

	第１０回　パーソナリティ研究についてのディスカッション 第１１回　パーソナリティ障害とは 第１２回　発達障害、うつ、不安とパーソナリティ 第１３回　パーソナリティと精神的問題についてのディスカッション 第１４回　レポートの作成と提出		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		人格心理学特講（R）
担当教員		高橋　恵理子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	到達目標は、心理学の歴史におけるパーソナリティ研究の位置づけと発展の歴史を踏まえて、パーソナリティについて、その定義、理論、測定法、研究法、変容の方法等について、幅広い知識を習得することである。パーソナリティという複雑で多面的な概念について、心理学という学問の立場から、柔軟に、かつ科学的に理解し、日常においても自分や他者を理解する際に役立ててほしい。
	テキストの概要	なし
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得する。 〈自宅学習〉 資料集１　宮本浩紀　『信州豊南短期大学紀要』　2015 年　p.45-64 資料集２　小塩真司　『Japanese Psychological Review』　2016 年　Vol. 59　No. 1 資料集３　村山航　『The Annual Report of Educational Psychology』　2012 年　Vol. 51　p.118-130 資料集４　小塩真司・阿部晋吾・カトローニ・ピノ　『パーソナリティ研究』　2012 年　Vol. 21　No. 1　p.40-52 資料集５　国里愛彦・山口陽弘・鈴木伸一　『パーソナリティ研究』　2008 年　Vol. 16　No. 3　p.324-334 資料集６　安保恵理子・須賀千奈・根建金男　『パーソナリティ研究』　2012 年　Vol. 20　No. 3　p.155-166 資料集７　阿部ひと美・今井正司・根建金男　『パーソナリティ研究』　2013 年　Vol. 21　No. 3　p.203-215 資料集８　宮川充司　『椙山女学園大学教育学部紀要』　2012 年　Vol. 5　p.107-114
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	

	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		社会心理学特講（ＳＲ）
担当教員		小西　啓史
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	社会心理学の研究方法を学んだのち、現代社会心理学の主要トピックを取り上げて解説します。具体的には、社会的影響過程（同調行動、服従、説得的コミュニケーションなど）、自己提示などです。これらを学ぶことによって、社会心理学に関する基礎的知識を身につけることをめざします。レポート課題については、上記①のうち集団過程（文化を中心に）に関する文献を講読します。
	テキストの概要	小西啓史編『資料集（社会心理学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部 資料１　社会的反響 資料２　依頼と要請 資料３　個人主義と集団主義 資料４　空間とコミュニケーション
授業計画		スクーリングとレポートを合わせて４単位を修得します。スクーリングは本学で集中開催される１００分の講義を１４時限受講し、試験に合格することで２単位を修得し、レポートは２つのレポート（１つの課題に対して２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 第 01 回　社会心理学研究法(1)：観察 第 02 回　社会心理学研究法(2)：実験 第 03 回　社会心理学研究法(3)：調査 第 04 回　社会的影響過程(1)：社会的規範の成立 第 05 回　社会的影響過程(2)：同調行動 第 06 回　社会的影響過程(3)：服従の心理 第 07 回　説得的コミュニケーション(1)：説得とは、情報の信憑性 第 08 回　説得的コミュニケーション(2)：一面的・両面的コミュニケーション、恐怖アピール、予防接種効果 第 09 回　説得的コミュニケーション(3)：段階的要請法 第 10 回　説得的コミュニケーション(4)：譲歩的要請法 第 11 回　説得的コミュニケーション(5)：承諾先取り法 第 12 回　説得的コミュニケーション(6)：ヒューリスティック 第 13 回　自己提示(1)：釈明 第 14 回　自己提示(2)：ゼルフ・ハンディキャッピング
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
		担当教員の実務経験（経歴・資格等）

	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		社会心理学特講（R）
担当教員		小西　啓史
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	社会的影響過程に関する文献、集団過程（文化を中心に）に関する文献を講読することによって、社会心理学に関する基礎知識を身につけ、日常場面で起こる社会的現象の理解と知識の応用が可能になることをめざします。
	テキストの概要	小西啓史編『資料集（社会心理学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部 資料１　社会的反響 資料２　依頼と要請 資料３　個人主義と集団主義 資料４　空間とコミュニケーション
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 資料１　社会的影響 資料２　依頼と要請 資料３　個人主義と集団主義 資料４　空間とコミュニケーション
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		環境心理学特講（R）
担当教員		佐野　奈緒子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	主要な学術ジャーナルや研究図書等から精選した人間－環境系を主題とした研究論文に対する批判的なレビューを端緒とした考察を通して、環境心理学および関連する学問ディシプリンによるアプローチを理解するとともに、環境心理学の視野を把握しその可能性を探索します。現在、様々な社会・環境的要因により住環境・都市環境・自然環境が大きく変化しつつあります。この点に注目し、環境心理学的観点から現状を分析し、対応策を示すトランスフォーマティブな研究を行う視点と考察する力の獲得をめざします。
	テキストの概要	村松陸雄編『資料集（環境心理学特講）』武蔵野大学大学院通信教育部.
授業計画		４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　住居の環境心理学 第２章　都市の環境心理学 第３章　自然の環境心理学 第４章　限りある資源の管理
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		メンタルヘルス特論
担当教員		野口　普子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	メンタルヘルスとは、精神的健康、心の健康、精神保健、精神衛生などと称され、主に精神的な疲労、ストレス、悩みなどの軽減や緩和とそれへのサポート、メンタルヘルス対策、あるいは精神保健医療のように精神障害の予防と回復を目的とした場面で使われる。ここでは、メンタルヘルスについての理解を深めるとともに、心と体の関係について整理しながら、精神健康の維持増進について理解を深める。
	テキストの概要	なし
授業計画		本校で行われるスクーリングに 2/3 以上出席し、最終日に教員より課される単位認定試験に合格することで２単位を認定します。 〈スクーリング〉 第 01 講：メンタルヘルスとは 第 02 講：ストレスについて 第 03 講：メンタルヘルスについて理解するために：理論編 第 04 講：うつについて 第 05 講：不安について 第 06 講：心身相関現象について 第 07 講：前半の振り返りとまとめ 第 08 講：循環器疾患とメンタルヘルス 第 09 講：慢性疾患とメンタルヘルス 第 10 講：がんとメンタルヘルス 第 11 講：自殺について 第 12 講：労働者のメンタルヘルス 第 13 講：セルフケアについて 第 14 講：単位認定試験
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
		担当教員の実務経験（経歴・資格等）
		授業内容との関連性
		b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
		学外講師の経歴・資格等

	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		ケースワーク特論（R）（人間__人間）
担当教員		矢野　明宏
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本講義では、社会福祉援助技術の一つであるケースワークについて、その歴史、基本概念とその技法を習得することによって、社会福祉援助活動についての理解を深めていく。そのことを通して、現代社会の中で適応困難（生活のしづらさ）をきたしている人たちの心理や行動（社会環境との関係も含む）を理解する能力を身につけることを目標とする。具体的には、ソーシャルワークの体系、ケースワークの歴史、構造、定義、視点・モデルの理解、ソーシャルワークの価値・倫理、対象者の援助・支援に必要なスキル、アセスメント・プランニングなどの展開過程、面接技法を理解し、それらをふまえて社会福祉援助活動についての理解を深めることになる。
	テキストの概要	堀千鶴子編『資料集（ケースワーク特論）』武蔵野大学大学院通信教育部
授業計画		本科目では、４つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 資料１～資料６
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		ターミナルケア特論（Ｓ）
担当教員		小西　達也
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	ケアの基本は、ケア対象者を１人のかけがえのない人間として捉え、ケア対象者と全人格的に向き合うことにある。 特にターミナルケアの現場では、その本質的な実践が求められる。本講では、そうしたケアの基本を徹底的に身につけると同時に、実際のターミナルケアの現場で直面する諸問題についての洞察を深め、ターミナルケア提供者に求められる総合的な能力の育成を目的とする。
	テキストの概要	なし
授業計画		スクーリングは、本学で開催される集中講義（１００分の講義を２８時限）を受講し、前期授業（第１回～１４回）の課題、後期前半授業（第１５～２２回）の課題、後期後半授業（第２３回～２８回）の全ての課題に合格することで４単位を修得します。 〈スクーリング〉 第 01 回　がんと終末期のリアリティ 第 02 回　ホスピス・緩和ケア 第 03 回　チーム医療 第 04 回　施設ホスピスと在宅ホスピス 第 05 回　スピリチュアルケア（１）傾聴の基本 第 06 回　スピリチュアルケア（２）スピリチュアルケアの基本 第 07 回　医療倫理 第 08 回　インフォームド・コンセント 第 09 回　尊厳死・安楽死 第 10 回　ALS・胃ろう 第 11 回　告知 第 12 回　告知ロールプレイ 第 13 回　臨床倫理検討 第 14 回　キューブラーロス 第 15 回　宗教と医療 第 16 回　チャプレン／臨床仏教師／臨床宗教師 第 17 回　グリーフケア（1） 第 18 回　グリーフケア（2） 第 19 回　死生観（1） 第 20 回　死生観（2） 第 21 回　自死と自死に関する仏教者の取り組み 第 22 回　超高齢社会と日本社会の今後 第 23 回　ビハーラでの活動

	第 24 回　死の体験 第 25 回　論文発表（１） 第 26 回　論文発表（２） 第 27 回　論文発表（３） 第 28 回　論文発表（４）		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		ターミナルケア特論（ＳＲ）
担当教員		小西　達也
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	ケアの基本は、ケア対象者を１人のかけがえのない人間として捉え、ケア対象者と全人格的に向き合うことにある。 特にターミナルケアの現場では、その本質的な実践が求められる。本講では、そうしたケアの基本を徹底的に身につけると同時に、実際のターミナルケアの現場で直面する諸問題についての洞察を深め、ターミナルケア提供者に求められる総合的な能力の育成を目的とする。
	テキストの概要	なし
授業計画		スクーリングとレポート併せて４単位を修得します。スクーリングは本学で開催される集中講義の前半を受講し、中間試験に合格することで２単位を修得し、その上で、レポート課題として２つのレポートを提出、合格した上で、単位認定申請レポートを提出、合格することで２単位を修得します。 「ターミナルケア特論」は大学院科目です。それゆえ基本的知識や技術の習得以上の、より専門的・主体的学びを前提とします。本スクーリング・レポートは、仏教学研究科学生の履修を視野に入れてデザインされたものです。レポート課題は第１回、第２回の課題ともに各々２つのテーマから構成されます。第１回課題は、「ターミナルケア力の向上」を主眼としています。まずテーマ１として「ケア提供者自身の死生観」を、テーマ２として「スピリチュアルケア」を取り上げます。この両テーマについては、スクーリング前半授業の中で取り上げるので、そこでの学びが本課題を行う上での基盤となります。
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	

	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		特定課題研究演習（人間__人間）
担当教員		一ノ瀬　正樹・小西　達也・小西　啓史・佐藤　裕之・西本　照真・野口　普子・日野慧運・丸井　浩
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	「特定課題研究演習」は、指定された課題に基づいて特定課題研究論文を執筆する科目です。 必修科目なので、この科目の単位を取得しなければ、大学院を修了することはできません。 一般的に大学院では修士論文の執筆が必修になっていますが、本学の人間社会研究科では、修士論文に相当するものが特定課題研究論文になります。 「人間社会研究科」という研究科名が示しているように、研究対象は人間です。人間を研究する場合、さまざまな学問分野（哲学、宗教学、心理学、生物学、社会学、経済学など）からのアプローチが可能です。しかし、近代以降、それぞれの 学問分野からの個別的アプローチでは人間を理解するこ とはできないという反省から、学問分野を横断し、総合的に人間にアプローチする「人間学」の必要性が求められます。最近では「総合人間学」という言い方もされています。 人間社会研究科 人間学専攻も、このようなアプローチによって人間を研究することを目的にしています。しかし、人間学が総合的に人間にアプローチするものであっても、「人間学」あるいは「人間 論」というタイトルがついた書籍や論文を読めば分かるように、そのテーマは多岐にわたり、方向性や問題意識も異なります。 従って、本学の人間社会研究科では、方向性や問題意識を明確にするために、修士論文ではなく、指定した課題 に基づく特定課題研究論文にしました。 研究には独創性が求められることがあります。しかし、研究において最も重要なのは 独創的な 結論そのものではなく、 どのような方法と手続きによってその結論を導き出したのかという研究方法になります。 どんなに独創性的な結論であっても、いい加減な研究方法によって導かれたものであるなら、それは研究による結果ではなく、ただの思いつきにしか過ぎません。 以上の点から、特定課題研究論文では、あえて独創的な結論は求めずに、確実な研究方法を求めます。 「特定課題研究演習」という科目の目的は、研究とはどのようなものであり、どのような方法で進めるのかという、研究能力を身に付けることです。 研究能力を身に付けることができれば、大学院修了後、関心のあるテーマを各自で研究することができます。
	テキストの概要	なし
授業計画		授業計画に記載の内容を行い、合格することで４単位を修得します。 〈研究スケジュール〉

	(2020 年) 11 月 30 日まで　「研究計画書」提出 12 月中旬　指導教員通知または再提出通知 12 月 25 日 12:00 正午まで　「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出（＊指導教員を通知された者のみ) (2021 年) 1 月 5 日 12:00 正午まで　「研究計画書」再提出（＊該当者のみ) 1 月中旬　指導教員通知（＊「研究計画書」再提出者のみ) 1 月 19 日 12:00 正午まで　「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出（＊「研究計画書」再提出者のみ) 2 月 11 日まで　指導教員決定通知（「指導教員変更願」の結果通知を含む) 2 月中旬　履修登録 3 月～5 月　第１回面接指導＊第２回目以降の面接指導は、指導教員と履修生が相談して回数と時期を決定します。 8 月 10 日まで　「研究経過確認申請・中間発表」提出 9 月下旬か 10 月上旬　中間発表（希望者のみ) 12 月 10 日まで　「清書論文提出許可願」提出 (2022 年) 1 月 10 日まで　「清書論文」/「清書論文提出届」提出 1 月下旬か 2 月上旬　公聴会・口述試問 2 月上旬　成績通知 8 月 10 日まで　「清書論文」提出（＊半年繰り上げ希望者のみ）/「清書論文提出届」提出（＊半年繰り上げ希望者のみ) 8 月下旬か 9 月上旬　公聴会・口述試問（＊半年繰り上げ希望者のみ) 9 月中旬　成績通知（＊半年繰り上げ希望者のみ)
成績評価の方法	単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験（経歴・資格等)
	授業内容との関連性
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
	学外講師の経歴・資格等
	授業内容
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目

	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		特定課題研究演習（仏教＿仏教）
担当教員		石上　和敬・遠藤　祐介・碧海　寿広・長尾　重輝・新作　慶明・前田　壽雄
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	「特定課題研究演習」は、指定された課題に基づいて特定課題研究論文を執筆する科目です。 必修科目なので、この科目の単位を取得しなければ、大学院を修了することはできません。 一般的に大学院では修士論文の執筆が必修になっていますが、本学の仏教学研究科仏教学専攻では、修士論文に相当するものが特定課題研究論文になります。 「仏教学」はその研究対象とする時代，地域，そして研究領域（たとえば思想・文化的側面，歴史的側面，儀礼的側面，社会的側面等々），及び，研究者の問題意識も多岐にわたるため，本研究科では，研究の方向性や問題意識を明確にするためにも，修士論文ではなく，指定した課題に基づく特定課題研究論文にしています. 次に，特定課題研究演習を履修するための基本的な留意点について触れておきます. 研究においては独創性というものが強く意識されることがあります。しかし、研究において最も重要なのは独創的な結論そのものではなく、どのような方法と手続きによってその結論を導き出したのかという研究方法になります。 どんなに独創的な結論であっても、杜撰な研究方法によって導き出されたものであるなら、それは研究による成果ではなく、ただの思いつきに過ぎないと批判されることもあるでしょう。 以上の点から、特定課題研究論文では、あえて独創的な結論は求めずに、確実な研究方法を求めます。 「特定課題研究演習」という科目の目的は、研究とはどのようなものであり、どのような方法で進めるのかという、研究遂行能力を身に付けることです。 研究 遂行 能力を身に付けることができれば、大学院修了後、関心のあるテーマを各自で研究することができます。
	テキストの概要	なし
授業計画		授業計画に記載の内容を行い、合格することで４単位を修得します。 〈研究スケジュール〉 (2020 年) 11 月 30 日まで　「研究計画書」提出 12 月中旬　指導教員通知または再提出通知 12 月 25 日 12:00 正午まで　「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出 （＊指導教員を通知された者のみ） (2021 年) 1 月 5 日 12:00 正午まで　「研究計画書」再提出（＊該当者のみ） 1 月中旬 指導教員通知　（＊「研究計画書」再提出者のみ）

	1 月 19 日 12:00 正午まで　「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出 （＊「研究計画書」再提出者のみ） 2 月 11 日まで　指導教員決定通知（「指導教員変更願」の結果通知を含む） 2 月中旬　履修登録 4 月～5 月　第１回面接指導 7 月～8 月　第２回面接指導 8 月 10 日まで　「研究経過確認申請」提出 10 月～11 月　第３回面接指導 12 月 10 日まで　「清書論文提出許可願」提出 12 月～1 月　第４回面接指導 (2022 年) 1 月 10 日まで　「清書論文」提出/「清書論文提出届」提出 1 月下旬か 2 月上旬　公聴会・口述試問 2 月上旬　成績通知 ＊第２回目以降の面接指導は、指導教員と履修生が相談して回数と時期を決定します。
成績評価の方法	単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）
	授業内容との関連性
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
	学外講師の経歴・資格等
	授業内容
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目
	実習先・実習の目的
備考	

科目名		持続可能な発展研究１
担当教員		明石　修
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	・地域の環境問題から地球規模の環境問題に、さらには社会、経済問題とも密接にかかわる持続可能な発展問題へと広がった現代の環境問題の歴史を理解すること ・持続可能な発展の内容について学び、自分なりの理解を深めること ・日本を含めた現代社会が、持続可能な発展をとげるためには、今後どのような対応が必要かということについての自分なりの考えを持てるようにすること。
	テキストの概要	上記科目概要の①については、本スタディーガイドの＜補助テキスト＞に掲載した、一方井執筆の二つの論文（「真のグリーンエコノミ―に向けて」、「成長パラダイムから持続可能性パラダイムへの転換に向けた現代の課題」）を参照してください。 上記②については、ヨルゲンランダース　「2052　今後 40 年のグローバル予測」日経 BP 社　2013 年、を参照してください（大学より現物を支給） 上記③については、ケイト・ラワース「ドーナツ経済学が世界を救う」河出書房新社 2018 年、を参照してください（本テキストの概要は「補助テキ
授業計画		本科目は、レポート科目です。４つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１課題（出題範囲：本スタディーガイドに掲載した「補助テキスト」の二つの文献） 第２課題(出題範囲：ヨルゲン・ランダース、2052　今後 40 年のグローバル予測) 単位認定申請レポート課題
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	

備考	

<table>
<tr><td colspan="2">科目名</td><td colspan="2">環境経営論</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当教員</td><td colspan="2">白鳥　和彦</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業方法</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目の概要</td><td>到達目標</td><td colspan="2">今日における環境経営は、公害対策から廃棄物対策、さらに温室効果ガスの削減や生物多様性保全など幅広い対応が求められています。また、それが同時に企業の持続可能な発展につながることが求められています。そのような観点から本講座では、日本の環境経営の現状と今後の課題について具体的な事例の分析を通じ理解を深めることとしたい思います。もとより、気候変動問題への対応など、は、国や地方の政策により企業が置かれる状況が変わる場合もあり、環境経営を考える際には、それらの政策や国際的な状況を併せて理解し判断をしていくことが必要です。
本科目における最終的な到達目標は以下のとおりです。
・環境経営を考える際に必要な基本的な諸要素を理解すること
・日本の環境経営の現状と課題について理解すること
・環境経営の今後の在り方について、自分なりの考え方や視点を持ち説明できるようにすること</td></tr>
<tr><td>テキストの概要</td><td colspan="2">タイトル：『環境経営論　環境対策研究』
市販名：一方井誠治著「低炭素化時代の日本の選択―環境経済政策と企業経営」、岩波書店、2008 年
タイトル：『環境経営論』
市販名：谷達雄著「環境経営入門」、秀和システム、2012 年、
タイトル：『環境経営論』
市販名：寺西俊一・石田信隆・山下英俊（編著）、「ドイツに学ぶ地域からのエネルギー転換」、家の光協会、2013 年</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業計画</td><td colspan="2">本科目は、レポート科目です。４つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで４単位を修得します。
〈自宅学習〉
第１課題（出題範囲：「低炭素化時代の日本の選択、第 2 章」、及び「環境経営入門、第 1 章～第 4 章」
第２課題（出題範囲：「ドイツに学ぶ地域からのエネルギー転換」）
単位認定申請レポート課題（ＷＢＴの No.5 区分「単位認定試験」に提出）</td></tr>
<tr><td colspan="2">成績評価の方法</td><td colspan="2">単位認定試験</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">実践的教育を行う授業科目の種別</td><td>a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目</td><td>○</td></tr>
<tr><td>担当教員の実務経験
（経歴・資格等）</td><td>（白鳥　和彦先生　職歴）
積水化学工業（株）住宅技術研究所・環境経営部・ＣＳＲ部
産業環境管理協会　地域・産業支援部門</td></tr>
</table>

	授業内容との関連性	製造業で環境領域の研究開発から環境経営・ＣＳＲ経営の施策立案・推進など企業実務の経験から得た知見を基に指導を行う。	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		環境学演習
担当教員		白鳥　和彦・武山　尚道
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	到達目標は、環境問題の主要なトピックに関する自分自身の考えを、レポートの作成演習やスクーリングでの討論を通じて、人に伝えることができる段階まで到達することを目指します。さらに細目の到達目標として, スクーリング授業における到達目標は, ①　研究者として身につけるべき論文作成技術と研究者倫理を身につける ②　個別的環境テーマに入る前の環境問題を俯瞰する網羅的知識を身につける ③　多面的視点からのディスカッションができるようになる ことを目指します. さらに，レポート授業における到達目標は，テキストなどを自身で学び, ① 環境問題の全体像を把握する。 ② また、環境問題の各トピックを十分に読み込み、今日の環境問題の実相とそれに対する各種の政策・対策を、歴史的な背景とともに理解する。 ③ そして、環境問題の本質と政策・対策の背後にある考え方について考察し、自分自身の見解や主張をもつ。 ④ さらに、自分自身の見解・主張を文章やレポート，論文あるいは討論によって伝える力（コミュニケーション能力）を養う。 ことを期待します. 本学大学院のディプロマ・ポリシーと本授業の到達目標との関係は； 企業社会・地域社会における環境課題を発見する知識・能力→基礎的科目 となります。 大学院の専門科目は、制度論的、手続き論的、技術論的なことを学び、それを社会の中で応用する力を養うことが中心になります。しかし、それだけでは単なるテクノクラートにしかなれません。環境白書等の報告書に書いてあるのは基本的な事柄ですが、よく理解しようとすればするほど、深い問題が横たわっていることがわかってきます。そこで述べられている環境問題や政策・対策などについて理解を深め，また多面的に解釈する過程で、環境に対する自分自身の視座というものを構築してもらいたいと考えています。
	テキストの概要	環境白書 「環境白書」は国（環境省）が毎年作例し、閣議決定の上で国会に提出され、一般に公表されているものです。環境問題に関する全般的な状況とそれに対する総合的な施策、および環境問題の各分野に関する現状・課題とそれに対応する施策の動向、および最近時点における実施施策の解説から構成されています。 「環境白書」は、現在は「（狭い意味での）環境白書」、「循環型社会白書」、「生物多様性白書」の３本建てとなっていますが、これはこれらの各白書が拠って立つ法律（国会に年次報告を求める法律の条文）がそれぞれ異なることが理由

授業計画	本科目は、スクーリングとレポートとを合わせて４単位を修得します。スクーリングは、本学で開講される原則１００分の講義を２８回受講し、試験（提出物およびプレゼンテーション）に合格することで２単位を修得し、レポートは、２つのレポートを提出して合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 第 01 回～第 06 回　論文作法／研究者倫理 第 07 回～第 12 回　環境問題の基礎 第 13 回～第 24 回　環境政策の動向と研究的課題 第 25 回～第 28 回　現在の社会動向と研究的課題の探索 〈自宅学習〉 第１章　環境問題と環境政策 第２章　持続可能な社会 第３章　気候変動と環境政策 第４章　さまざまな環境問題	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	（白鳥　和彦先生　職歴） 積水化学工業（株）住宅技術研究所・環境経営部・ＣＳＲ部 産業環境管理協会　地域・産業支援部門 （武山　尚道先生　職歴） 石川島播磨重工（株）　海外事業本部員 （株）社会工学研究所、（株）日本総合研究所 神奈川県庁政策局
	授業内容との関連性	・製造業で環境領域の研究開発から環境経営・ＣＳＲ経営の施策立案・推進など企業実 務の経験から得た知見を基に指導を行う。 ・環境に関するさまざまな分野やテーマに関する調査究やコンサルティング、あるいは 自治体政策の実践の経験を活かした指導を行う。 特に、循環型社会づくりに向けた各種の政策、公害・廃棄物問題、資源・エネルギー 問題、環境と途上国問題、気候変動などについては具体的な事例を扱った経験を講義録 やスクーリング内容に活かす。
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	

	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		緑地環境計画論
担当教員		伊尾木　慶子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目は、自然風土と人間活動によって形成される緑地生態系とランドスケープを理解するための基礎的能力を養成し、そのモニタリングや保全、創造、維持管理について理解することで、緑地保全の専門的能力やその実践にかかわる問題解決能力を養成することを目的とする。 健全な生態系保全に寄与する都市緑化や都市での緑地計画の総合的な展開事例の基礎的理解を通じて、履修後には環境創成と環境保全に関わる緑地計画の提案ができるようになることを到達目標とする。 最終的な目標として、受講者が自ら関心をもった都市の緑地生態系への理解を通して、現代社会の諸問題を検討していく視座を獲得し、実践的に独自なものを提案できるような思索を深めていくことを期待します。
	テキストの概要	鈴木伸一、 宮崎忠國 編著 ； 内田均、 竹内将俊、 入江彰昭、 神藤正人 共著 ； 小林章 監修 『環境緑地学入門―理論と実際―』（コロナ社、2010 年）
授業計画		本科目は、レポート科目です。２つのレポート（２つの課題に対してそれぞれ 1 つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 1 章 環境緑地学へのいざない 2 章 地球環境と緑地 3 章 植生と環境 4 章 ヒートアイランドと緑地 5 章 緑地の保全 6 章 緑地を構成する動物の生態・保全 7 章 フィールド調査 8 章 緑地の創造 9 章 緑地施設の設計・施工 10 章 緑地の施工・管理
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	

	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		都市環境心理学
担当教員		佐野　奈緒子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	主要な学術ジャーナルや研究図書等から精選した人間－環境系を主題とした研究論文に対する批判的なレビューを端緒とした考察を通して、環境心理学および関連する学問ディシプリンによるアプローチを理解するとともに、環境心理学の視野を把握しその可能性を探索します。現在、様々な社会・環境的要因により住環境・都市環境・自然環境が大きく変化しつつあります。この点に注目し、環境心理学的観点から現状を分析し、対応策を示すトランスフォーマティブな研究を行う視点と考察する力の獲得をめざします。
	テキストの概要	村松陸雄編『資料集（都市環境心理学）』武蔵野大学大学院通信教育部.
授業計画		２つのレポート（１つの課題に対して２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　住居の環境心理学 第２章　都市の環境心理学 第３章　自然の環境心理学 第４章　限りある資源の管理
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		都市環境心理学（Ｓ）
担当教員		佐野　奈緒子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	主要な学術ジャーナルや研究図書等から精選した人間－環境系を主題とした研究論文に対する批判的なレビューを端緒とした考察を通して、環境心理学および関連する学問ディシプリンによるアプローチを理解するとともに、環境心理学の視野を把握しその可能性を探索します。現在、様々な社会・環境的要因により住環境・都市環境・自然環境が大きく変化しつつあります。この点に注目し、環境心理学的観点から現状を分析し、対応策を示すトランスフォーマティブな研究を行う視点と考察する力の獲得をめざします。
	テキストの概要	スクーリング：羽生和紀（2008).環境心理学―人間と環境の調和のために サイエンス社
授業計画		本学で毎週開催される原則１００分の講義を１４コマ受講し、試験に合格することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 第１回 自己紹介、授業ガイダンス 第２回 基本文献の輪読：第１章 第３回 基本文献の輪読：第２章 第４回 基本文献の輪読：第３章 第５回 基本文献の輪読：第４章 第６回 グループワーク① 第７回 基本文献の輪読：第５章 第８回 基本文献の輪読：第６章 第９回 基本文献の輪読：第７章 第 10 回 グループワーク② 第 11 回 基本文献の輪読：第８章 第 12 回 基本文献の輪読：第９章 第 13 回 基本文献の輪読：第１０章 第 14 回 グループワーク③
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	

	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		地域環境政策論
担当教員		白井　信雄
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	・地方環境政策の成立過程や発展の状況を理解すること ・地方環境政策と国の環境政策との関係と、地方環境政策の役割を理解すること ・地方環境政策の課題を理解すること ・地元の環境問題に気付くこと ・世界の地方環境政策に目を向け、そこから学ぶこと
	テキストの概要	一方井誠治（編著）「テキスト 地域環境政策論テキスト」（武蔵野大学大学院通信教育部、 2014 年）
授業計画		本科目は、レポート科目です。２つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 ・１回目のレポート テキスト全体を通読し、最も興味を持ったテーマを一つ取り上げて、その内容を要約するとともに、新たな調査研究内容を付け加え、併せて自分なりにそのテーマに関する現代的な課題とその解決策の方向について論じなさい。 ・２回目のレポート 第１回レポートの添削内容を参考にして、書き直しなさい（具体的には、添削で指示する。） ・単位認定申請レポート課題 学習者自身が住む（あるいはゆかりのある）地域における具体的な環境問題についてとりあげ、それが地方環境政策としてどのように対処されているか、もし、それが十分なものではない場合、どこに問題があるのか、住民としてはどのような行動をとるべきかなどについて、本講座の学習を踏まえ、自分なりに考えた内容について述べなさい。
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	

	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		環境コミュニケーション論
担当教員		栗林　敦子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	企業や地域社会における環境マネジメントの実践を円滑に進めるためには、環境の人間的側面を十分に理解し、その状況に応じたアプローチが必要となります。本授業では、そのアプローチの１つである「環境コミュニケーション」の意義と手法を学び、既存の環境コミュニケーションの事例の分析を通じて、自らが抱えるテーマに環境コミュニケーション手法の適用をするための能力を身につけることを目的とします。
	テキストの概要	栗林敦子編『資料集（環境コミュニケーション論』武蔵野大学大学院通信教育部
授業計画		本科目は、レポート科目です。２つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートの評価と合わせて合格点を得ることで、２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章:コミュニケーションの本質を理解しつつ、環境コミュニケーションの一般的な動向を知るとともに、日常的な環境コミュニケーションを振り返ります。 第２章:コミュニケーションが人々の環境意識や環境行動にどのような影響を与えうるのか受けうるのか、逆に環境意識が高く、環境行動をよく行う人のコミュニケーション特性はどのようなものかを理解します。また、マスメディアの中に現れる「環境」が、社会にどのような影響を与えているかを理解します。その上で、環境コミュニケーションをリスク・コミュニケーションの一つとして捉え、「リテラシー」の重要性を理解し、環境コミュニケーションへの展開を考えます。 第３章:環境コミュニケーションを「ソーシャル・マーケティング」の１手法として考え、環境コミュニケーション・キャンペーンの企画例を見ながら環境コミュニケーションのPDCA サイクルを理解します。 第４章:環境コミュニケーションを、企業経済価値、社会価値、その他に分類しそのツールを知り、自己学習として事例の検索とその評価を行い、望ましいツールの活用方法を学びます。
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	

	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		システム・ダイナミックス論
担当教員		田辺　直行
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	到達目標は、（１）環境をシステムとして捉え、フィードバック構造を表現した「ループ図」による理解の仕方を習得すること、（２）そのフィードバック構造によって、システムの振舞いを定性的、あるいは定量的に解析することができるようになることである。
	テキストの概要	なし
授業計画		本科目は、レポート科目です。２つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 テキスト［1］でシステムの基本的な概念や考え方を習得し、テキスト［2］で環境や社会の課題をシステムとしてとらえて分析する方法を具体例を使って学びます。最後には、受講生の興味のある問題に対して、これらの手法を使って分析することにより、その問題に対する対策を提案していただきたいと考えています。
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		ＣＳＲ論
担当教員		杉浦　正吾
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	地球環境問題の社会的特異性と、ＣＳＲ活動における「環境」分野を理解し、その上でＣＳＲの全体像と問題点を整理します。ＣＳＲビジョン策定から戦術・アクションまで事例を通じてそのプランニングを把握したうえで、近年の企業サイドにおける、環境的・社会的側面を中心としたＣＳＲ活動をリサーチし、消費生活者サイドの「信頼」や「新しい価値観（主として地球温暖化を中心とした環境問題に起因するソーシャルニーズなど）」に応えるという視点からの、いわゆるＣＳＶ的な「環境/ＣＳＲ活動マネジメント」を提案・実践できる知見のベースづくりを目標とします。
	テキストの概要	「サステナビリティと本質的ＣＳＲ～環境配慮型社会に向けて～」 後藤敏彦／薗田綾子　三和書籍　3000 円（本体+税）
授業計画		本科目は、レポート科目です。２つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 ・第１課題（出題範囲：序章～第４章、第９章・１０章） 社会課題とＣＳＲの関係性やその歴史的背景・潮流を、世界日本の両視点からアプローチします。 ・第２課題（出題範囲：第５章・６章、企業のＣＳＲ活動） 具体的なＣＳＲプランニングおよびマネジメント、およびレポーティングを中心としたコミュニケーションについて学びます。 ・単位認定申請レポート課題 第２課題でとりあげた企業から１社を選び、第１課題の意見もまじえて、あなたの考える「提言、未来に向けた●●社のＣＳＲ活動」を論じます。
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	

	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		環境マネジメントシステム論
担当教員		白鳥　和彦
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目は、環境マネジメントシステムを組織のマネジメントシステムの一つとして捉え、環境マネジメントシステムを組織経営に有効に活用する視点を育てることを狙いとしています。 環境マネジメントシステム（EMS：Environmental management systems）は、ISO14001 規格が制定された 1996 年以降、多くの組織が認証登録しています。一方、ISO14001 を基に認証登録対象を限定、規格の要求事項を対象組織に分かりやすくするなどの工夫をした環境マネジメントシステムが考案 され、それぞれが特徴ある認証登録の仕組みを構築運用しています。いずれの環境マネジメントシステムにおいても、ISO14001 が基礎としている PDCA（Plan-Do-Check-Act）サイクルによる環境パフォーマンスの改善が柱となっています。 ISO14001 は、従来の基本原則を維持しつつ「組織をとりまく環境課題の変化」及び「ISO マネジメントシステム規格の共通化」に対応し 2015 年に大幅に改訂されました。 講師は ISO14001 認証取得に向けての事務局、運用事務局、ISO14001 審査員、EA21 審査人の経験があります。更に、小さな会社の経営もしています。環境マネジメントシステムのおぼろげな全貌を感じ取れたのは認証取得後で、PDCA サイクルを 1 回まわした後です。また、会社を興し初年度の会計を終了後に何となく会社の経営について理解を少し深めました。これらの経験から、環境マネジメントシステムを経営的視点から理解するためには、座学ではなく経験が必要であると考えています。 本科目では、改訂された ISO14001（JIS Q 14001:2015)をもとに作成したテキストを参考にし、受講生が設定した仮想組織の ISO14001 に基づく環境マネジメントシステムを経営者の立場になって、構築、運用し、PDCA サイクルを 1 回経験します。この経験を踏まえ、経営的な観点で環境マネジメントシステムを活用することの利点を受講生が理解することを期待しています。 仮想会社の設定ですので、楽しく大胆な取り組みを期待します。受講生は仮想会社の社長であることを忘れないで下さい。
	テキストの概要	なし
授業計画		本科目は、レポート科目です。２つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 ①「想定会社の環境マネジメントシステム計画段階（Plan）」に関する以下の項目のレポートを作成。 １．想定会社の設定と EMS 運用体制の設定 ２．想定組織の状況把握 ３．想定組織の環境方針の制定

	４．想定組織の環境側面、環境影響評価及び著しい環境側面の特定 ５．「リスク及び機会」の特定 ６．順守義務の特定 ７．全社環境目標の設定 ８．実施計画書の策定 ②「想定会社の環境マネジメントシステムの支援及び運用（Do）、パフォーマンス評価（Check）、改善（Act）段階」に関する以下の項目のレポートを作成 １．力量が必要な業務の教育訓練計画の策定、実施 ２．コミュニケーションプロセスの確立、実施 ３．運用プロセスの策定 ４．緊急事態への対応 ５．環境パフォーマンスの監視、測定、分析、評価 ６．順守評価 ７．内部監査の実施 ８．マネジメントレビューの実施 ９．改善 ③単位認定試験 ①,②の添削結果をまとめて提出		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		○
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	（白鳥　和彦先生　職歴） 積水化学工業（株）住宅技術研究所・環境経営部・ＣＳＲ部 産業環境管理協会　地域・産業支援部門	
	授業内容との関連性	製造業で環境領域の研究開発から環境経営・ＣＳＲ経営の施策立案・推進など企業実務の経験から得た知見を基に指導を行う。	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		持続可能な発展研究２
担当教員		磯部　孝行
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本授業での到達目標は、特定の分野において資源循環の考え方に基づき、材料の代替、省資源化、リサイクルなど資源を有効活用する方策を考え提案することができ能力を身に付けることを目標としています。具体的には、以下の３点を到達目標としています。 ・環境問題、主として資源循環を考える上での基本原則、原理を理解する。 ・持続可能な概念などを理解した上で、特定の分野における資源循環の在り方を思考することができる。 ・特定の分野において、多様な視点から資源を有効活用するための方策を提案できる。
	テキストの概要	オリジナルの資料集（担当教員：磯部孝行が編集） ※適宜、授業内容に合わせて追加の参考資料を配布。
授業計画		本科目は、レポート科目です。２つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　資源循環の法制度の概要とリサイクル 第２章　リサイクルの実践：建築分野における資源循環 第３章　持続可能な社会実現に向けた新たな概念
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		ライフサイクルアセスメント論
担当教員		髙橋　和枝
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目は、国際的に標準化されている環境負荷、環境影響の定量的評価手法であるライフサイクルアセスメント（LCA)について学んでいきます。ライフサイクルアセスメントの基本となるライフサイクル思考とは単に目の前にあるモノやサービスについて考えるだけではなく、製造から廃棄までのライフサイクルで考えることです。例えば皆さんのパソコンは、電気エネルギーを消費することでその機能を発現することができます。しかしパソコンの環境負荷とは、単に電気エネルギーを消費することだけでしょうか？そのパソコンが皆さんの手元に届くまでにはトラックでの輸送があり、ガソリンなどのエネルギーを消費しています。また製造段階では多数の金属資源材が必要ですが、その多くは海外で採掘され、素材として日本に輸入されたものです。そして廃棄する時にも環境への排出があります。このように見えていない環境影響にも配慮することにより、真の意味での環境配慮ができると言えます。そこで、LCA は、製品の環境価値を測るだけではなく、近年では、企業など組織の環境施策の決定にも活用されています。このように様々なシーンで期待されている LCA ですが、実際に実施するためにはいくつかの手順を学び、また、使用するデータベースの選び方やデータの集め方などを知ることが必要です。『改訂版　演習で学ぶ LCA』をテキストとして使用します。テキストを各章毎に読み込んでいき、LCA の四つのフェーズである目的と調査範囲の設定、インベントリ分析、ライフサイクル影響評価、ライフサイクル解釈の意義と手順を理解していきます。またテキストのやかんのケーススタディーを自ら実施しながら、実践方法について理解していきます。 後半には LCA 事例研究とし学会の論文誌から自分の興味のある研究論文を１つ選定し、テキストの勉強で得られた LCA 手法の理解をもとに論文のレビューを行っていただきます。このことにより LCA 専門家が具体的な物やサービスについて LCA 調査をどのように実践しているか、そして LCA 研究の最新動向を理解します。 本授業の到達目標は、ライフサイクルアセスメントを実際に行える能力を身につけることです。
	テキストの概要	「改訂版　演習で学ぶＬＣＡ」稲葉敦編著、株式会社シーエーティー、　ISBN978-4-9910127-0-9
授業計画		本科目は、レポート科目です。２つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 テキスト第１章 環境問題の捉え方,第２章 製品のライフサイクルとモノ作り,第３章 LCA とは何か　第１回 テキスト第４章　目的および調査範囲の設定　第２回 テキスト第５章　インベントリ分析、第６章　インベントリ分析の演習、第 3～5 回 テキスト第９章　配分、第 10 章リサイクルの LCA　　第９回 テキスト第 11 章 解釈、第 12 章 LCA の国際規格　第 10 回

	テキスト第 13 章ライフサイクルコストとペイバックタイム　第 11 回 LCA 事例研究　第１２～１４回 まとめ　第１５回		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験 （経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		環境会計論
担当教員		白鳥　和彦
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目の到達目標は以下の通りです。 ・企業経営と環境問題の関係を知り、環境会計の役割を理解すること。 ・環境省の環境会計ガイドラインについて理解すること。 ・複数の先進的企業の環境報告書や CSR 報告書における具体的記載事例を収集し分析すること。 ・上記の分析等により、環境会計に関して一定レベルの専門的見解を持てること。
	テキストの概要	國部 克彦，伊坪 徳宏，水口 剛 共著 『環境経営・会計』、有斐閣、2,100 円、ISBN 978-4-641-12311-3
授業計画		本科目は、２つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 ・第１課題 本書の 1 章から 12 章までを通読し、その中で最も興味を引かれた章についてとりあげ、その理由を述べなさい。次いで、その章の要約を行ったうえで、疑問点や更に知りたい点を調査し、その結果について記述し、最後にその章のテーマについて自分なりの考えについて論じなさい。 ・第２課題 調査の方向性や観点として、①概要、②特徴、③費用対効果や環境負荷対売上高等の環境効率指標の導入状況、④経年推移、⑤物量効果の貨幣額換算への留意、⑥製品・サービスの環境負荷低減効果、⑦その他独自の観点からの分析、⑧総評について考察しまとめること。 ・単位認定申請レポート課題 第２課題レポートで調査分析した「企業の環境会計の取り組み事例」に加え、「企業の CSR 会計の取り組み事例」を調査し、分析すること。事例の選定方法は第２課題と同様。同一業界での傾向分析および他業界間の比較分析を行い、自分なりの考えを加えて論じる。第２課題レポートに CSR 会計に関する調査分析を追記編集する形で、考察を深めること。
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目　○
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	（白鳥　和彦先生　職歴） 積水化学工業（株）住宅技術研究所・環境経営部・ＣＳＲ部 産業環境管理協会　地域・産業支援部門

	授業内容との関連性	製造業で環境領域の研究開発から環境経営・ＣＳＲ経営の施策立案・推進など企業実務の経験から得た知見を基に指導を行う。
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		省資源・省エネルギー論
担当教員		明石　修
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目の到達目標は以下のとおりである。 ・省エネ、代替エネルギーの技術や制度の動向について理解する ・日本における省エネやエネルギー代替の可能性について論じる能力を身につける ・具体的に事例において、エネルギー削減可能量やその経済性を検討する能力を身につける
	テキストの概要	日本エネルギー経済研究所計量分析ユニット編　『図解 エネルギー・経済データの読み方入門』（一般財団法人省エネルギーセンター、2017 年）
授業計画		本科目は、レポート科目です。２つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 この資料集は、2050 年までを対象としアメリカにおける化石燃料の使用削減の可能性を論じています。化石燃料の使用削減には、大きく 2 つの方法があります。エネルギー効率向上によるエネルギー消費量の削減と、再生可能エネルギーの導入によるエネルギーの代替です。この資料集では、運輸、建物、工業、発電の部門ごとに、上記 2 つの方法の可能性について具体的に検討を行っています。この資料集を通読することにより、省エネや代替エネルギーの可能性について、技術やコストの観点から理解することができます。
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		環境化学物質論
担当教員		真名垣　聡
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目は、我々の生活に必需となっている化学物質の性質や環境での動態の理解と、化学物質規制や管理制度の最新動向の把握が主な内容です。そして、講義を受けることで最終的には化学製品に関連する専門的な改善策の立案、企画提案や改善提案を行う知識・能力の向上と、企業社会において専門的な知識・能力を実践できるようになることを目標とします。 生活者の日常行動が環境問題に大きな影響を及ぼしている今日においては、利用する側の目線や気持ちで製品や技術の特性を考えることが重要となっています。例えば化学物質は身の回りの製品や技術に広く使われ、私たちが生活する上で欠かせないものですが、一方で安全性に関する社会問題が生じていることも事実です。安全で安心できる社会生活の実現のためには、化学物質のリスクを適切に管理、削減するとともに、生活者の理解を進める必要がありますが、ではどのような製品・技術を選択すべきなのでしょうか？またその際にはどのようなことを考える必要があるのでしょうか？本科目はこれらの問いに少しでも答えることを目的とした講義を進めていきたいと考えています。 具体的には、化学物質の有害性や危険性、測定手法と環境動態について講義をし、環境対策への理解と活用方法の能力を養います。さらにリスク評価やリスク管理をおこなうためのより適切な情報の入手方法、評価方法の習得を目指します。
	テキストの概要	真名垣　聡【編】「テキスト　環境化学物質論」（武蔵野大学大学院通信教育部、2014年）
授業計画		本科目は、レポート科目です。２つのレポートを提出し、チェックを受けた上で必要に応じて加筆・修正し再提出します。全てに合格し、単位認定申請レポートを提出することで2単位を修得します。 〈自宅学習〉 第1章・第2章　化学物質の使用と環境汚染の歴史 第3章 国内外における化学物質管理の概況
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
		担当教員の実務経験（経歴・資格等）
		授業内容との関連性
		b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
		学外講師の経歴・資格等

	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		環境材料工学
担当教員		髙橋　和枝
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本授業の目標は以下のとおりです。 ・様々な材料について性能と機能について学び、限りある資源を有効利用するために必要な基礎知識を習得する。 ・各種材料の劣化機構および新規材料の開発状況について理解すること ・持続可能な社会を実現するために必要な材料技術について理解を深めること 最終的な目標は、持続可能な社会を支える材料に求められる課題を理解し、課題解決型の材料技術について、提案できるようになることです。
	テキストの概要	タイトル：『材料学の基礎』 市販名：菱田博俊著、「わかりやすい材料学の基礎」、成山堂書店 2012 年 ISBN9784425690817
授業計画		本科目は、レポート科目です。２つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。。 〈自宅学習〉 1. 材料の基礎 2. 社会を支える材料の基礎と課題
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		環境デザイン論
担当教員		林田　和人
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	環境（空間「住宅、学校、公園、駅、街、都市など」やモノ）をデザインする場合、デザイナーの思い込みが先行し、使う側の人間に対する配慮が欠け、使いづらかったり、不安で危険な環境が作られることがあります。このようなことを回避するためには、人間の行動や心理の特性を把握し、それを十分に考慮して環境をデザインすることの重要性を知る必要があります。 そこで、人と人、人とモノ、人と空間との場面における、人間の行動や心理の特性を伝え、皆さんが素敵な未来を描いてくれるための手助けをします。 そして、知識をインプットするだけではなく、授業の内容、自分で観察したこと、自分の経験などを駆使し、新しい、自分にしかできないオリジナリティのある環境（空間やモノ）を発想します。 人間の行動特性を生かした、自分にしかできないオリジナリティのある環境（空間やモノ）を発想することを到達目標とします。 また、立案したアイデアを人に理解してもらい、感動してもらうためには、わかりやすく説明することが必要です。文章ではなく、ダイアグラム（図）でわかりやすく表現するプレゼンテーションを作成することを到達目標とします。 皆さんが能動的、積極的に授業に関わっていただけるよう、アクティブラーニングのスタイルで授業を進めます。
	テキストの概要	アクティブラーニングの授業スタイルで、皆さんに実験や調査、アイデアについてのプレゼンテーションを作成してもらいます。 テキストは特に使用しません。授業で使用する資料を、pdf で配布します。
授業計画		本科目の学習方法はスクーリングです。 スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで 2 単位を修得します。 〈スクーリング〉 第 01 講【テーマ】講義「人体寸法とモノとの関係」 第 02 講【テーマ】講義「関係を測ることを知る」 第 03 講【テーマ】グループワーク「仮説を立てて実験を行い計測する」 第 04 講【テーマ】グループワーク「人体寸法との関係からモノのアイデアを発想する」 第 05 講【テーマ】講義「モノと人-アフォーダンス」、講義「人と人-パーソナルスペース」 第 06 講【テーマ】グループワーク「アフォーダンスやパーソナルスペースに関する事例紹介」 第 07 講【テーマ】個人ワーク「アフォーダンスやパーソナルスペースから空間やモノを発想する」

	第 08 講【テーマ】講義「群集流動と滞留の特性」、講義「空間と人–歩行特性と行動のモデル」 第 09 講【テーマ】グループワーク「仮説を立て、映像の群集を観察して行動特性を発見する」 第 10 講【テーマ】グループワーク「行動特性の発見」 第 11 講【テーマ】個人ワーク「行動特性からアイデアを発想する」 第 12 講【テーマ】講義「未来の技術、行動シミュレーション、私の研究紹介」 第 13 講【テーマ】個人ワーク「自分が思う、解決したい世の中の問題を考える」 第 14 講【テーマ】個人ワーク「自分が思う、解決したい世の中の問題を解決するアイデアを発想する」		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		環境配慮設計・プロセス論
担当教員		鶴田　祥一郎
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	サステナブルな社会の実現に不可欠な「ものづくりと消費・サービスに関わる環境負荷の低減」を実現するために必要な環境配慮設計（エコデザイン）の考え方を理解することを目標とします。
	テキストの概要	なし
授業計画		本科目は、レポート科目です。２つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 1. 環境配慮設計（エコデザイン）と各種手法 2. 環境配慮設計（エコデザイン）事例と今後の在り方
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		地域活性化デザイン論
担当教員		金子　和夫
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	わが国におけるエコプロダクツと地域活性化の現状や成功事例を学ぶために、地域社会を環境、生活、経済の総合的な体系としてとらえ、住民、企業、行政が協働で地域活性化デザインに取り組む理論と実践的なプログラムを習得する。 ①地域活性化の理論を習得する。 ②地域活性化の実践的なプログラムを習得する。 ③フィールドを設定して、現地調査実習の手法を習得する。 ④地域活性化デザインの企画書作成の技術を習得する。
	テキストの概要	本科目はスクーリングだけの開講であるため、資料集は配布しません。スクーリング時に毎回、資料を配布して講義を行います。
授業計画		本科目は、スクーリングだけの学習方法で開講されます。スクーリングは、本学で開催される集中講義（１００分の講義を３日計８時限）と現地調査実習（１００分の３時限、２日）を受講し、レポート試験に合格することで２単位を修得します。レポートは、特定地域の地域活性化事業計画を作成していただきます。 〈スクーリング〉 第 01 回　理論編①「地域活性化デザインとは何か」 第 02 回　理論編②「多様な主体が参加した地域活性化デザインの戦略的な視点」 第 03 回　プログラム①「現状把握と巻き込み」 第 04 回　プログラム②「戦略策定」 第 05 回　プログラム③「実行」「評価と改善」「地域特性と連携する主体の違いによる留意点」 第 06 回　手法①地域活性化企画書の構成要素と作り方 第 07 回　手法②現地調査の方法 第 08 回　現地調査実習①「各種データや計画の収集」 第 09 回　現地調査実習②「関係者のヒアリング調査」 第 10 回　現地調査実習③「地域資源調査」 第 11 回　現地調査実習④「地域資源調査」 第 12 回　現地調査実習⑤「調査の取りまとめ」 第 13 回　成果発表①「地域活性化企画書の作成」 第 14 回　成果発表②「成果の発表と質疑」
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
		担当教員の実務経験（経歴・資格等）

	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		資源循環・リサイクル論
担当教員		白鳥　和彦
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	人間以外の生態系は共生並びに食物連鎖で資源循環に成立しており、廃棄物やリサイクルの概念はない。自然の変化に対応できる生物だけが生き残っている。人類にとって必要な資源とは何か、資源を用い持続可能な社会を維持するためにどのような社会システムが必要かについて、自分なりの考えを持つことを目的とする。 第１ステップとして、資源とは何かについて考える。資源は固定的なものでなく、常に変化しているので、宇宙誕生から現在までの歴史を振り返ることから始める。生物の活動が地球環境の変化に大きく影響を及ぼし、地球環境変化が生物の進化に影響を及ぼしている。生物は地球の環境に対して常に受け身の立場ではなく、相互に影響を及ぼし合っている。 第２ステップとして、現在の天然資源の状況を事例で紹介した。 第３ステップとして、日本における資源循環、リサイクル、廃棄物の状況を環境白書などでのデータで示すとともに、循環型社会形成に向けた法体系とリサイクルの個別法の概要を示した。廃棄物の適正処理、リサイクル推進を規定している廃棄物処理法の概要を説明した。 第４ステップとして、生物界での共生と循環の事例を示した。生物の活動、変化は非常にダイナミックに行われ、何回もの大絶滅を乗り越え、多様化している。 第５ステップとして、現在の人類の活動が自然界、生物界へ影響を及ぼしている事例で示した。 最後のステップとして、人類の持続可能な社会形成に向けての提言である「成長の限界」の示す点、過去の崩壊した文明や国家の事例を紹介した。 人類が多量の資源を消費し、多量の排出物を自然環境に出している問題に加え、新たな脅威を起こす可能性の生産活動（遺伝子操作による生物の誕生、意思を持った人工知能体の誕生）を開始していることを提言した。
	テキストの概要	なし
授業計画		本科目は、レポート科目です。２つのレポートを提出してすべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　資源 第２章　資源循環―リサイクル― 第３章　持続可能な社会は構築できるか
成績評価の方法		単位認定試験
		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目　○

実践的教育を行う授業科目の種別	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	（白鳥　和彦先生　職歴） 積水化学工業（株）住宅技術研究所・環境経営部・ＣＳＲ部 産業環境管理協会　地域・産業支援部門	
	授業内容との関連性	製造業で環境領域の研究開発から環境経営・ＣＳＲ経営の施策立案・推進など企業実務の経験から得た知見を基に指導を行う。	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		特定課題研究演習（環境__環境）
担当教員		明石　修・磯部　孝行・伊尾木　慶子・白井　信雄・白鳥　和彦・髙橋　和枝・真名垣聡・村松　陸雄
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	「特定課題研究演習」は、指定された課題に基づいて特定課題研究論文を執筆する科目です。必修科目なので、この科目の単位を取得しなければ、大学院を修了することはできません。 一般的に大学院では修士論文の執筆が必修になっていますが、本学の環境学研究科環境マネジメント専攻では、修士論文に相当するものが特定課題研究論文になります。 「環境学研究科環境マネジメント専攻」という研究科名と専攻名が示しているように、研究対象は 環境マネジメントです。具体的には、企業・自治体等の事業所レベルにおける環境改善・低炭素化の ための諸課題、あるいは地域社会における環境改善・低炭素化のための諸課題について、環境マネジ メントの手法や地域特有の地理的・人的・社会的条件の事例調査やフィールド調査によって、持続可 能性の観点からの解決策をまとめるものとします。また特定課題研究の成果は、論文形式又は研究対 象とした事業所や自治体への提案やフィードバックを想定した形式でまとめるものとします。 研究には独創性が求められることがあります。しかし、研究において最も重要なのは独創的な結論そのものではなく、どのような方法と手続きによってその結論を導き出したのかという研究方法になります。どんなに独創性的な結論であっても、いい加減な研究方法によって導かれたものであるなら、それは研究による結果ではなく、ただの思いつきにしか過ぎません。 以上の点から、特定課題研究論文では、あえて独創的な結論は求めずに、確実な研究方法を求めます。「特定課題研究演習」という科目の目的は、研究とはどのようなものであり、どのような方法で進めるのかという、研究能力を身に付けることです。研究能力を身に付けることができれば、大学院修了後、関心のあるテーマを各自で研究することができます。
	テキストの概要	なし
授業計画		授業計画に記載の内容を行い、合格することで４単位を修得します。 〈研究スケジュール〉 (2020 年) 11 月 30 日まで　「第１次研究計画書」提出 12 月中旬　指導教員通知または再提出通知 12 月 25 日 12:00 正午まで　「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出（＊指導教員を通知された者のみ） (2021 年) 1 月 5 日 12:00 正午まで　「第１次研究計画書」再提出（＊該当者のみ）

	1 月中旬　指導教員通知（＊「第１次研究計画書」再提出者のみ） 1 月 19 日 12:00 正午まで　「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出（＊「第１次研究計画書」再提出者のみ） 2 月 11 日まで　指導教員決定通知（「指導教員変更願」の結果通知を含む） 2 月中旬　履修登録 4 月 20 日まで　「第２次研究計画書」提出 3 月～5 月　第１回面接指導 7 月～8 月　第２回面接指導 8 月 10 日まで　「研究経過確認申請」提出 10 月～11 月　第３回面接指導 12 月 10 日まで　「清書論文提出許可願」提出 12 月～1 月　第４回面接指導 (2022 年) 1 月 10 日まで　「清書論文」提出「清書論文提出届」提出 1 月下旬か 2 月上旬　公聴会・口述試問 2 月上旬　成績通知 ＊第２回目以降の面接指導は、指導教員と履修生が相談して回数と時期を決定します。
成績評価の方法	単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）
	授業内容との関連性
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
	学外講師の経歴・資格等
	授業内容
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目
	実習先・実習の目的
備考	

科目名		仏教と共生原理（Ｓ）
担当教員		新作　慶明
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目では、仏教における「共生」の原理を学習し、学習者自身の共生観を構築することを目的とします。 今日、様々な分野で「共生」が主張されていますが、裏を返せば、いまこそ共生が考えられなければならない、ということになります。そこで、本科目では、仏教文献の中に見られる「共生」について、個人の生き方・社会との関わり方という視点をもって、学んでいきます。最終的な到達目標は、仏教思想の現代的意義と社会福祉思想との関連を考え、他職種・他機関との協同・連携力を身につけることにあります。
	テキストの概要	竹村牧男『ブッディスト・エコロジー ―共生・環境・いのちの思想』（ノンブル社、2016 年）
授業計画		スクーリングを選択した場合、スクーリングは本学で開催される原則１００分の講義を１４時間受講し、試験に合格することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 第０１回　イントロダクション 第０２回　共生とは何か 第０３回　仏教と共生①「個人と世界」 第０４回　仏教と共生① 第０５回　仏教と共生②「幸福・苦」 第０６回　仏教と共生② 第０７回　仏教と共生③「煩悩と行為」 第０８回　仏教と共生③ 第０９回　仏教と共生④「いのち」 第１０回　仏教と共生④ 第１１回　仏教と共生⑤「環境・自然」 第１２回　仏教と共生⑤ 第１３回　仏教と共生⑥「自己の探究」 第１４回　仏教と共生⑥ 〈自宅学習〉 Ⅰ 共生の思想「共生思想の歩みと課題」 Ⅰ 共生の思想「自然と他者と―禅の立場から」 Ⅰ 共生の思想「空海の人間観をめぐって―己心の中の曼荼羅という思想」 Ⅱ 自己と環境「自然との共生と日本の思想」 Ⅱ 自己と環境「己事究明としてのエコ・フィロソフィ」 Ⅱ 自己と環境「仏教に基づく生活指針―新大乗戒の提唱」 Ⅲ いのちの深みへ「人生の苦を見つめて」 Ⅲ いのちの深みへ「仏教の死生観―輪廻とは何か、そこからどう脱却するのか」

	Ⅲ いのちの深みへ「仏教と神秘主義―禅と密教を中心に」		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		仏教と共生原理（R）
担当教員		新作　慶明
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目では、仏教における「共生」の原理を学習し、学習者自身の共生観を構築することを目的とします。 今日、様々な分野で「共生」が主張されていますが、裏を返せば、いまこそ共生が考えられなければならない、ということになります。そこで、本科目では、仏教文献の中に見られる「共生」について、個人の生き方・社会との関わり方という視点をもって、学んでいきます。最終的な到達目標は、仏教思想の現代的意義と社会福祉思想との関連を考え、他職種・他機関との協同・連携力を身につけることにあります。
	テキストの概要	竹村牧男『ブッディスト・エコロジー ―共生・環境・いのちの思想』（ノンブル社、2016 年）
授業計画		２つのレポート（1 つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 Ⅰ 共生の思想「共生思想の歩みと課題」 Ⅰ 共生の思想「自然と他者と―禅の立場から」 Ⅰ 共生の思想「空海の人間観をめぐって―己心の中の曼荼羅という思想」 Ⅱ 自己と環境「自然との共生と日本の思想」 Ⅱ 自己と環境「己事究明としてのエコ・フィロソフィ」 Ⅱ 自己と環境「仏教に基づく生活指針―新大乗戒の提唱」 Ⅲ いのちの深みへ「人生の苦を見つめて」 Ⅲ いのちの深みへ「仏教の死生観―輪廻とは何か、そこからどう脱却するのか」 Ⅲ いのちの深みへ「仏教と神秘主義―禅と密教を中心に」
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	

	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		社会福祉理論研究（S）
担当教員		野口　友紀子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	この授業の目標は、最近の社会福祉原理に関する文献を読み込み、内容に対する理解を深め、批判的検討を通して、社会福祉とは何かという問いに自分なりの答えを見つけ出すことです。そして、自分なりに社会福祉を体系的に説明できるようになることです。 本講では古川孝順の学説に従って、社会福祉の目的(歴史)･対象･主体･方法について理解を深めます。具体的には、目的歴史：社会福祉は何のために存立するのか、対象：社会福祉を利用するのは誰なのか･そのような利用者はどのような状況におかれているのか、主体：誰が社会福祉を担うのか、方法：どのようにして対象に接近し援助を行うのか、という問いを巡ってその基本的な考え方を学びます。併せてそしてそれを基盤にしながら受講者自身の諸実践を社会福祉理論という文脈に位置づけることによって、ディプロマポリシーに記載している 1)困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力、2)リスクマネジメント等を含む組織運営管理能力、組織デザイン・改革力、福祉資源開発力、3)社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力の基盤形成の一助とすることを期待しています。
	テキストの概要	一般社団法人日本社会福祉学会編(2012)『対論　社会福祉学１　社会福祉原理・歴史』中央法規出版
授業計画		スクーリングを選択した場合、スクーリングは本学で開催される講義を受講し、レポートを作成・提出することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 1. オリエンテーション（本授業の意義と目的、成績評価について他） 2. テキストの説明、報告の準備の仕方 3. 『社会福祉とはなにか―理論と展開』の中から選択した論考１本を報告 4. ディスカッション、解説 5. 『社会福祉とはなにか―理論と展開』の中から選択した論考１本を報告 6. ディスカッション、解説 7. 『社会福祉とはなにか―理論と展開』の中から選択した論考１本を報告 8. ディスカッション、解説 9. 『社会福祉とはなにか―理論と展開』の中から選択した論考１本を報告 10. ディスカッション、解説 11. 『社会福祉とはなにか―理論と展開』の中から選択した論考１本を報告 12. ディスカッション、解説 13. 振り返り 14. 総括

<table>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="3">単位認定試験</td></tr>
<tr><td rowspan="8">実践的教育を行う授業科目の種別</td><td colspan="2">a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目</td><td></td></tr>
<tr><td>担当教員の実務経験
（経歴・資格等）</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>授業内容との関連性</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目</td><td></td></tr>
<tr><td>学外講師の経歴・資格等</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、
研修を行う授業科目</td><td></td></tr>
<tr><td>実習先・実習の目的</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

科目名		社会福祉理論研究（R）
担当教員		野口　友紀子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	この授業の目標は、最近の社会福祉原理に関する文献を読み込み、内容に対する理解を深め、批判的検討を通して、社会福祉とは何かという問いに自分なりの答えを見つけ出すことです。そして、自分なりに社会福祉を体系的に説明できるようになることです。 本講では古川孝順の学説に従って、社会福祉の目的(歴史)･対象･主体･方法について理解を深めます。具体的には、目的歴史：社会福祉は何のために存立するのか、対象：社会福祉を利用するのは誰なのか･そのような利用者はどのような状況におかれているのか、主体：誰が社会福祉を担うのか、方法：どのようにして対象に接近し援助を行うのか、という問いを巡ってその基本的な考え方を学びます。併せてそしてそれを基盤にしながら受講者自身の諸実践を社会福祉理論という文脈に位置づけることによって、ディプロマポリシーに記載している 1)困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力、2)リスクマネジメント等を含む組織運営管理能力、組織デザイン・改革力、福祉資源開発力、3)社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力の基盤形成の一助とすることを期待しています。
	テキストの概要	一般社団法人日本社会福祉学会編(2012)『対論　社会福祉学１　社会福祉原理・歴史』中央法規出版
授業計画		２つのレポート（1 つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１部　社会政策と社会福祉の関係性（我国に於ける社会事業の現在及び将来；社会事業の理論的位置　ほか) 第２部　社会福祉学は成り立つのか（社会福祉学とは何か；社会福祉学の失われた半世紀ほか) 第３部　社会福祉の政策と技術の統合（社会福祉固有の視点と方法；社会福祉における構造＝機能論的理解　ほか) 第４部　社会福祉理論の課題（「日本社会福祉理論史」について；社会福祉における“原理論”の展開と課題　ほか) 第５部　社会福祉とはなにか（社会福祉の争点；「社会福祉とは何か」の今日的意義　ほか)
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	

	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		ソーシャルワーク理論研究（S）
担当教員		木下　大生
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	ソーシャルワークにおける価値、実践における倫理と倫理的ジレンマ、ソーシャルワークの技法、ソーシャルワーク理論の歴史的な背景を理解しながら、特にポストモダン以降の理論について学びを深め、自らの実践と理論の関連性について検討します。ソーシャルワーク理論を各自の実践において検証し、自らの実践の深化を図ることを目的とします。ディプロマポリシーにある、「1. 困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等」および「3. 社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等」の向上を目指して学びを深めます。
	テキストの概要	なし
授業計画		スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 1. オリエンテーション 2. 心理社会的アプローチ 3. 機能的アプローチ 4. 問題解決アプローチ 5. 家族療法とソーシャルワーク 6. 行動療法とソーシャルワーク 7. 課題中心ソーシャルワーク 8. 生態学的（エコロジカル）アプローチ 9. ジェネラリスト・アプローチ 10. ケアマネジメント・ソーシャルサポートネットワーク 11. エンパワーメント・アプローチ 12. 構成主義・ナラティブ 13. ソーシャルワークの価値と倫理及び倫理的ジレンマ 14. まとめとふりかえり 〈自宅学習〉 第 1 部　ソーシャル・ケースワークの実践モデル（第 01 章～第 06 章） 第 2 部　統合実践モデルと新しいモデル（第 07 章～第 12 章）
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	

	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		ソーシャルワーク理論研究（R）
担当教員		木下　大生
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	ソーシャルワークにおける価値、実践における倫理と倫理的ジレンマ、ソーシャルワークの技法、ソーシャルワーク理論の歴史的な背景を理解しながら、特にポストモダン以降の理論について学びを深め、自らの実践と理論の関連性について検討します。ソーシャルワーク理論を各自の実践において検証し、自らの実践の深化を図ることを目的とします。ディプロマポリシーにある、「1. 困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等」および「3. 社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等」の向上を目指して学びを深めます。
	テキストの概要	なし
授業計画		２つのレポート（1 つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第 1 部　ソーシャル・ケースワークの実践モデル（第 01 章～第 06 章） 第 2 部　統合実践モデルと新しいモデル（第 07 章～第 12 章）
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		社会福祉制度政策研究（S）
担当教員		山本　雅章
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	社会福祉政策の幅広い問題を対象として、履修者が選んだ課題（複数）に対して履修者が小論文を書き、担当講師がコメントを述べます。履修者はコメントに対応して小論文を改定する。この繰り返しを経て小論文を完成させます。 その過程で履修者は選んだテーマについて、①現状や課題を的確に把握し、②自分の考えを発展させ、それをサポートするエビデンスを集め、③論理の飛躍なく、かつ、分かりやすい文章と付加価値の高い図表で小論文を作成することが求められます。そのスキルは社会福祉学に関する専門的な内容の論文執筆に欠かせないものです。
	テキストの概要	府川哲夫・磯部文雄著（2017）「保健医療福祉行政論」ミネルヴァ書房
授業計画		スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 通学制の「社会福祉制度政策研究」では，レポート授業に準じて論文指導を基本にします。その際，単に講師からの一方的な講義ではなく，参加者同士の活発な討議を行いたいと思っています。その過程を通じて普段当たり前だと思っていることを言語化し実践知を明確化することで，多様な視点が提示されると考えています。
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		社会福祉制度政策研究（R）
担当教員		山本　雅章
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	社会福祉政策の幅広い問題を対象として、履修者が選んだ課題（複数）に対して履修者が小論文を書き、担当講師がコメントを述べます。履修者はコメントに対応して小論文を改定する。この繰り返しを経て小論文を完成させます。 その過程で履修者は選んだテーマについて、①現状や課題を的確に把握し、②自分の考えを発展させ、それをサポートするエビデンスを集め、③論理の飛躍なく、かつ、分かりやすい文章と付加価値の高い図表で小論文を作成することが求められます。そのスキルは社会福祉学に関する専門的な内容の論文執筆に欠かせないものです。
	テキストの概要	府川哲夫・磯部文雄著（2017）「保健医療福祉行政論」ミネルヴァ書房
授業計画		２つのレポート（1 つの課題に対して２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第３章　介護サービス 第４章 福祉サービス 第５章 保健医療福祉行財政
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		ケースワーク特論（Ｓ）（実践福祉学専攻）
担当教員		大崎　広行
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	ソーシャルワークは、人と環境との関わり合いを常に複眼的に捉え、人々の生活や人生に関与する、極めて実践的な領域です。本講義では、ソーシャルワーク実践の中核となる個別支援（ケースワーク）について、歴史的な史実も踏まえて、ジェネラリスト・ソーシャルワークやミクロからマクロまでのソーシャルワーク理論に依拠しながら、事例も交えて体系的かつ実践的に学ぶことを目的とします。 本科目の到達目標は、上記目的を達成することを通して、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携の知識を理解すると共に、社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等を身につけることにあります。
	テキストの概要	久保紘章・副田あけみ編（2005）『ソーシャルワークの実践モデル―心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店。
授業計画		スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 第１章　ソーシャルワークの理論と実践の基本的枠組み 第１回　オリエンテーション、ソーシャルワークとは 第２回　ソーシャルワーク理論と実践―過去・現在・未来 第３回　ソーシャルワークの理論と実践の関係再構築 第２章　ソーシャルワークの視座 第４回　ソーシャルワークの価値と倫理 第５回　ソーシャルワークにおける人権と社会正義、権威 第３章　ソーシャル・ケースワークの実践モデル 第６回　ソーシャル・ケースワークの実践モデル１ 第７回　ソーシャル・ケースワークの実践モデル２ 第８回　ソーシャル・ケースワークの実践モデル３ 第９回　ソーシャル・ケースワークの実践モデル４ 第 6 回～第 9 回の講義では、以下のアプローチについて検討します。 心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、実存主義的アプローチ、家族療法とソーシャルワーク（家族療法アプローチ）、行動療法とソーシャルワーク（行動療法アプローチ）、課題中心ソーシャルワーク 第４章　統合実践モデルと新しい実践モデル 第 10 回　統合実践モデルと新しい実践モデル１ 第 11 回　統合実践モデルと新しい実践モデル２ 第 12 回　統合実践モデルと新しい実践モデル３ 第 10 回～第 12 回の講義では、以下のアプローチについて検討します。

	エコロジカル・アプローチ、ジェネラリスト・アプローチ、エンパワメント・アプローチ、ストレングス視点アプローチ、 第５章　支援の実際と実践現場における今日的課題 第 13 回　支援の実際と実践現場における今日的課題１ 第 14 回　支援の実際と実践現場における今日的課題２ 第 13 回～第 14 回の講義では、以下の領域より選択して検討します。 「知的障害者領域」「高齢者領域」「保健医療領域」「精神科領域」「自殺予防領域」 「貧困・ホームレス・失業・刑事司法」領域、「保健・リハビリテーション・メンタルヘルス」領域、「家族・青少年」領域、「成人・高齢者」領域		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		ケースワーク特論（R）（実践福祉学専攻）
担当教員		大崎　広行
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	ソーシャルワークは、人と環境との関わり合いを常に複眼的に捉え、人々の生活や人生に関与する、極めて実践的な領域です。本講義では、ソーシャルワーク実践の中核となる個別支援（ケースワーク）について、歴史的な史実も踏まえて、ジェネラリスト・ソーシャルワークやミクロからマクロまでのソーシャルワーク理論に依拠しながら、事例も交えて体系的かつ実践的に学ぶことを目的とします。 本科目の到達目標は、上記目的を達成することを通して、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携の知識を理解すると共に、社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等を身につけることにあります。
	テキストの概要	久保紘章・副田あけみ編（2005）『ソーシャルワークの実践モデル―心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店。
授業計画		２つのレポート（1 つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　心理社会的アプローチ 第２章　機能的アプローチ 第３章　問題解決アプローチ 第４章　家族療法とソーシャルワーク（家族療法アプローチ） 第５章　行動療法とソーシャルワーク（行動療法アプローチ） 第６章　課題中心アプローチ 第７章　生態学的（エコロジカル）アプローチ 第８章　ジェネラリスト・アプローチ 第 11 章　エンパワーメント・アプローチ
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	

	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		グループワーク特論（S）
担当教員		小俣　智子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目の到達目標は、グループワークを机上の学問とせず、実践的な理論とともにグループワークスキルを獲得し、アドバンスソーシャルワーカーを目指すことです。 具体的には、グループワーク理論の成り立ちや主要概念、方法論等を学び、それを踏まえて自身の実践を省察・評価し、自らの実践課題を説明できるようになることを目標とします。 科目概要は、ソーシャルワークの発展の中でのグループワークの歴史的経緯、グループワークの定義や理論の変遷及びその効果を理解し、その上で実践において活用できるよう方法論としてのグループワーク技術について学んでいきます。 身近なソーシャルワーク実践を用いて、実際にグループワークを体験し実践力を高める科目のため、スクーリングを選択することをお勧めします。
	テキストの概要	大利一雄（2003）「グループワーク　理論とその導き方」勁草書房
授業計画		スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 第１週　グループワークの歴史と概要 第２週　グループワークのアプローチ・モデル理論 第３週　グループワーによる支援の展開（準備期） 第４週　グループワークによる支援の展開（開始期・オリエンテーション） 第５週　グループワークによる支援の展開（作業期）（終結期） 第６週　グループワーク支援（セルフヘルプ・グループ） 第７週　グループワークの実践演習　振り返りとまとめ
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	

	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		グループワーク特論（R）
担当教員		小俣　智子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目の到達目標は、グループワークを机上の学問とせず、実践的な理論とともにグループワークスキルを獲得し、アドバンスソーシャルワーカーを目指すことです。 具体的には、グループワーク理論の成り立ちや主要概念、方法論等を学び、それを踏まえて自身の実践を省察・評価し、自らの実践課題を説明できるようになることを目標とします。 科目概要は、ソーシャルワークの発展の中でのグループワークの歴史的経緯、グループワークの定義や理論の変遷及びその効果を理解し、その上で実践において活用できるよう方法論としてのグループワーク技術について学んでいきます。 身近なソーシャルワーク実践を用いて、実際にグループワークを体験し実践力を高める科目のため、スクーリングを選択することをお勧めします。
	テキストの概要	大利一雄（2003）「グループワーク　理論とその導き方」勁草書房
授業計画		２つのレポート（1 つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 グループワークの歴史と概要 グループワークのアプローチ・モデル理論 グループワーによる支援の展開（準備期） グループワークによる支援の展開（開始期・オリエンテーション） グループワークによる支援の展開（作業期）（終結期） グループワーク支援（セルフヘルプ・グループ） グループワークの実践演習　振り返りとまとめ
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	

	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		コミュニティワーク特論（S）
担当教員		小田川　華子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	地域社会の変質に伴い、さまざまな生活上の課題や困難を抱えつつも、地域(在宅)で自立した生活を営むためには、安全で安心できる生活圏域の確保、再構築、地域づくりが重要課題となっています。ソーシャルワーカーには、今後ますます地域を基盤とした支援を促進するためのコミュニティへのアプローチの機能が求められます。 本科目は、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、多職種・多機関との協働・連携力、人材育成力を高めることや、社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力を高めることと関連しています。より具体的には、メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて学ぶとともに、地域の福祉ニーズの把握方法、ソーシャルサポートネットワーク(地域における社会資源)の活用・調整・開発、地域のトータルケアシステムの構築と実際、住民活動・ボランティア活動を支援する方法等について検討し、学ぶことで、我が国の現状にあったコミュニティアプローチについて議論します。
	テキストの概要	下記文献を本科目では適宜活用していきます。※大学からは１のみ配布されます。 １．平野隆之・穂坂光彦・朴兪美・韓国住民運動教育院（2018）『地域アクションのちから―コミュニティワークリフレクションブック』全国コミュニティライフサポートセンター. コミュニティ組織化の基本的な考え方、主体、準備、展開過程における様々な着眼点について書かれており、自身の実践の振り返り、省察に活用できます。 ２．マシュー・ボルトン（2020）『社会はこうやって変える！―コミュニティ・オーガナイジング入門』法律文化社。 ソー
授業計画		スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格すること等で２単位を修得します。 〈スクーリング〉 ＜実践理論＞ ・コミュニティワーク（コミュニティ・オーガナイジング、以下 CO）の概念と歴史 ・CO を活用したソーシャル・ディベロップメント ・CO を活用したソーシャル・アクション ・コミュニティ組織化の主体：コミュニティリーダーとワーカー ・コミュニティ組織化の準備：住民との関係づくり・対話、コミュニティ理解 ・コミュニティ組織化の展開：リーダーシップ、トレーニング、組織の立ち上げ ・エンパワメントを意図した参加型アクションリサーチ ＜演習＞ ・それぞれの現場における CO 実践との関りと問題意識の共有

	・CO 戦略策定（プランニング）演習 ・パブリック・ナラティブ（スキル）演習 ・CO 実践コーチング ・貧困問題等への CO の活用 ・現代日本における CO 実践の有用性と課題		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		コミュニティワーク特論（R）
担当教員		小田川　華子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	地域社会の変質に伴い、さまざまな生活上の課題や困難を抱えつつも、地域(在宅)で自立した生活を営むためには、安全で安心できる生活圏域の確保、再構築、地域づくりが重要課題となっています。ソーシャルワーカーには、今後ますます地域を基盤とした支援を促進するためのコミュニティへのアプローチの機能が求められます。 本科目は、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、多職種・多機関との協働・連携力、人材育成力を高めることや、社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力を高めることと関連しています。より具体的には、メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて学ぶとともに、地域の福祉ニーズの把握方法、ソーシャルサポートネットワーク(地域における社会資源)の活用・調整・開発、地域のトータルケアシステムの構築と実際、住民活動・ボランティア活動を支援する方法等について検討し、学ぶことで、我が国の現状にあったコミュニティアプローチについて議論します。
	テキストの概要	下記文献を本科目では適宜活用していきます。※大学からは１のみ配布されます。 １．平野隆之・穂坂光彦・朴兪美・韓国住民運動教育院（2018）『地域アクションのちから―コミュニティワークリフレクションブック』全国コミュニティライフサポートセンター. コミュニティ組織化の基本的な考え方、主体、準備、展開過程における様々な着眼点について書かれており、自身の実践の振り返り、省察に活用できます。 ２．マシュー・ボルトン（2020）『社会はこうやって変える！―コミュニティ・オーガナイジング入門』法律文化社。 ソー
授業計画		２つのレポート（1 つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 １．平野隆之・穂坂光彦・朴兪美・韓国住民運動教育院（2018）『地域アクションのちから―コミュニティワークリフレクションブック』全国コミュニティライフサポートセンター. 第１部　コミュニティ組織化の主体：コミュニティリーダーとワーカー 第２部　コミュニティ組織化の準備：住民との関係づくり・対話、コミュニティ理解 第３部　コミュニティ組織化の展開：リーダーシップ、トレーニング、組織の立ち上げ ２．マシュー・ボルトン（2020）『社会はこうやって変える！―コミュニティ・オーガナイジング入門』法律文化社。 ソーシャル・アクション型のコミュニティ・オーガナイジングの基本的な考え方とワーカーの心得、戦術などについてイギリスにおける実践事例から学ぶことができます。理解

	を深めるための副読本として用います。スクーリングでは、パワーの考え方、民主主義とCOといったテーマでディスカッションを行います。 ３．鎌田華乃子（2020）『コミュニティ・オーガナイジング―ほしい未来をみんなで創る5つのステップ』英治出版 　コミュニティ・オーガナイジングの実践に不可欠なスキルが分かりやすく記述されています。スクーリングでは特に第2章、第5章を用いて演習を行います。 　第1章　コミュニティ・オーガナイジングとは何か 　第2章　パブリック・ナラティブ 　第3章　関係構築 　第4章　チーム構築 　第5章　戦略作り 　第6章　アクション 　第7～9章　事例	
成績評価の方法	単位認定試験	
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		スーパービジョン特論（S）
担当教員		稗田　里香
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目の到達目標は、専門職としてのソーシャルワーカーを養成するためのトレーニング・プロセスであるスーパービジョンの理論と方法を段階的かつ実践的に学び、スーパーバイザーとして実践の場でスーパービジョンが展開できる技術を身につけ、自らの職場における新人養成や人材育成においてソーシャルワークのスーパービジョンを実施し後進指導の役割を担えるようにすることです。
	テキストの概要	福山和女ほか編（2018）『保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョン』 ミネルヴァ書房
授業計画		スクーリングを選択した場合、スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 01. スーパービジョンの効果と意義 02. 欧米におけるスーパービジョンの理論的変遷 03. 新たなソーシャルワーク・スーパービジョン 04. スーパービジョンを説明する 05. スーパービジョンの効果を上げる 06. スーパービジョン実施のための準備 07. スーパービジョンの体制の評価を考える 08. スーパーバイザーの悩み 09. スーパーバイジーとスーパーバイザーの共同作業 10. スーパービジョンの倫理１ 11. スーパービジョンの倫理１ 12. スーパーバイザーの教育 13. スーパービジョンの研究　スーパービジョンの質的研究、量的研究 14. まとめ
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	

	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		スーパービジョン特論（R）
担当教員		稗田　里香
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目の到達目標は、専門職としてのソーシャルワーカーを養成するためのトレーニング・プロセスであるスーパービジョンの理論と方法を段階的かつ実践的に学び、スーパーバイザーとして実践の場でスーパービジョンが展開できる技術を身につけ、自らの職場における新人養成や人材育成においてソーシャルワークのスーパービジョンを実施し後進指導の役割を担えるようにすることです。
	テキストの概要	福山和女ほか編（2018）『保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョン』 ミネルヴァ書房
授業計画		レポートを選択した場合、２つのレポート（1 つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第 01 章 スーパービジョンの効果と意義 第 02 章 欧米におけるスーパービジョンの理論的変遷 第 03 章 新たなソーシャルワーク・スーパービジョン 第 04 章 スーパービジョンを説明する 第 05 章 スーパービジョンの効果を上げるためには 第 06 章 スーパービジョン実施のための準備 第 07 章 スーパービジョンの体制の評価を考える 第 08 章 スーパーバイザーの悩み 第 09 章 スーパーバイジーとスーパーバイザーの共同作業 第 10 章 スーパービジョンの倫理 第 11 章 スーパーバイザーの教育 第 12 章 スーパービジョンの研究
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	

	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		ケースマネジメント特論（S）
担当教員		渡邉　浩文
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目では、ケースマネジメントの理解を通して、様々な課題を抱えながら地域で生活する人々への支援のあり方について検討します。具体的には、ケースマネジメントが必要とされる背景について学び、どのようなニーズに対してケースマネジメントを活用することが必要かについての理解を深めます。そのうえで、ケースマネジメントの機能として、アセスメント、サービス支援計画、モニタリング等の詳細について学びます。以上を通して、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等を身に着けることを目指します。
	テキストの概要	デイビッド P.マクスリー（著），野中 猛（翻訳），加瀬 裕子（翻訳）（1994）『ケースマネジメント入門 』中央法規出版
授業計画		スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　対人サービスのケースマネジメント 第２章　サービスと支援のニーズに関するアセスメント 第３章　サービス支援計画の展開 第４章　ケースマネジメントの直接サービス機能 第５章　ケースマネジメントの間接サービス機能 第６章　ケースマネジメントのモニタリング機能 第７章　ケースマネジメントの評価機能 第８章　効果的なケースマネジメント：実践の指針 〈スクーリング〉 第 01 回　ケースマネジメントの概念及び必要とされる背景 第 02 回　ケースマネジメントのプロセス 第 03 回　ケースマネジメントにおけるアセスメント① 第 04 回　ケースマネジメントにおけるアセスメント② 第 05 回　ケースマネジメントにおけるニーズ① 第 06 回　ケースマネジメントにおけるニーズ② 第 07 回　ケースマネジメントにおけるサービス支援計画 第 08 回　ケースマネジメントの間接サービス機能 第 09 回　ケースマネジメントにおけるモニタリングと評価 第 10 回　ケースマネジメントとソーシャルワーク 第 11 回　ケースマネジメントの実際① 第 12 回　ケースマネジメントの実際② 第 13 回　ケースマネジメントの実際③ 第 14 回　まとめ

<table>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="3">単位認定試験</td></tr>
<tr><td rowspan="8">実践的教育を行う授業科目の種別</td><td colspan="2">a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目</td><td></td></tr>
<tr><td>担当教員の実務経験
（経歴・資格等）</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>授業内容との関連性</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目</td><td></td></tr>
<tr><td>学外講師の経歴・資格等</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、
研修を行う授業科目</td><td></td></tr>
<tr><td>実習先・実習の目的</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

科目名		ケースマネジメント特論（R）
担当教員		渡邉　浩文
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目では、ケースマネジメントの理解を通して、様々な課題を抱えながら地域で生活する人々への支援のあり方について検討します。具体的には、ケースマネジメントが必要とされる背景について学び、どのようなニーズに対してケースマネジメントを活用することが必要かについての理解を深めます。そのうえで、ケースマネジメントの機能として、アセスメント、サービス支援計画、モニタリング等の詳細について学びます。以上を通して、困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等を身に着けることを目指します。
	テキストの概要	デイビッド P. マクスリー（著），野中 猛（翻訳），加瀬 裕子（翻訳）（1994）『ケースマネジメント入門 』中央法規出版
授業計画		２つのレポート（1 つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章　対人サービスのケースマネジメント 第２章　サービスと支援のニーズに関するアセスメント 第３章　サービス支援計画の展開 第４章　ケースマネジメントの直接サービス機能 第５章　ケースマネジメントの間接サービス機能 第６章　ケースマネジメントのモニタリング機能 第７章　ケースマネジメントの評価機能 第８章　効果的なケースマネジメント：実践の指針
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	

	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		ソーシャルアドミニストレーション特論（S）
担当教員		飛永　高秀
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目の到達目標は、ソーシャルワークのメゾ･マクロ実践の一つであるソーシャルアドミニストレーションについて理解を深め、その｢視点｣から実践を考察し理解を深められるようにすることにあります。 ソーシャルアドミニストレーションという概念が日本で受容されてからかなり経過していますが、必ずしもその概念が十分に浸透したり、理解が進んでいるとは言えない状況にあります。例えば『現代社会福祉辞典』(有斐閣)には、｢イギリスにおいて、福祉国家や社会サービスに関する研究を行う学問分野や研究主題を言い表すときに、その総称としても用いられることがある｣(秋元他 2003:299 頁)と記述されており、以前は｢社会福祉行政｣、今日では一般的に｢社会福祉管理｣｢社会福祉経営｣と訳されています。この背景には、この概念が普及し始めた 1960～70 年代当時、社会福祉という事象を管理し経営していた主体が行政だったということに起因しています。しかしながら 1970 年代以降、福祉サービスの供給体制が多元化する中で、行政から非営利組織や企業組織といった様々な主体によってサービス提供が担われるようになり、その概念も拡散しつつある状況にあるといえます。 本講では、ソーシャルアドミニストレーションを｢福祉におけるサービス提供団体の運営管理に関する領域｣として捉え、ニーズ(必要)に対するリソース(資源)、そしてその資源の供給主体、資源共共有の方法という基本的視点を日本における当該領域の泰斗の一人でもある三浦文夫の学説を踏まえてその基本的な考え方を理解しつつ、団体の運営管理の視点からサービス･プログラムの組織化と組織開発(組織経営･組織行動･人的資源マネジメント)、供給主体の協働(組織戦略･ソーシャルマーケティング)等について基本的理解を深めることを目的とします。
	テキストの概要	［2020 年度入学以前の受講者］ １）R・M・ティトマス／三友雅夫(監訳) (1981) 『社会福祉政策』恒星社厚生閣 ２）イエスタ エスピン - アンデルセン / 岡沢 憲芙,宮本 太郎 (翻訳)(2001)『福祉資本主義の三つの世界 (MINERVA 福祉ライブラリー)』ミネルヴァ書房 ［2021 年度入学以降の受講者］ １）三浦文夫 (1995) 『<増補改訂>社会福祉政策研究』全社協【テキスト１】 ２）金井壽宏(1999)『経営組織』日本経済新聞社【テキスト２】
授業計画		スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで２単位を修得します。 <スクーリング> 第 01 回：オリエンテーション 第 02 回：ソーシャルアドミニストレーションを巡る諸定義：講義(ティトマス等、イギリスのソーシャルアドミニストレーション論を中心に

	第 03 回：ソーシャルアドミニストーレーションの日本的文脈①（三浦理論を中心に）：講義 第 04 回：ソーシャルアドミニストーレーションの日本的文脈②（三浦理論を中心に）：講義と発表 第 05 回：サービス･プログラムの組織化と組織開発①（組織経営を巡って）：講義 第 06 回：サービス･プログラムの組織化と組織開発②（組織経営を巡って）：発表と講義 第 07 回：サービス･プログラムの組織化と組織開発③（組織行動を巡って）：講義 第 08 回：サービス･プログラムの組織化と組織開発④（組織行動を巡って）：発表と講義 第 09 回：サービス･プログラムの組織化と組織開発⑤（人的資源マネジメントを巡って）：講義 第 10 回：サービス･プログラムの組織化と組織開発⑥（人的資源マネジメントを巡って）：講義と発表 第 11 回：供給主体の協働①（組織戦略を巡って）：講義 第 12 回：供給主体の協働②（組織戦略を巡って）：発表と講義 第 13 回：供給主体の協働③（ソーシャルマーケティング）：講義 第 14 回：供給主体の協働④（ソーシャルマーケティング）：発表と講義
成績評価の方法	単位認定試験

実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		ソーシャルアドミニストレーション特論（R）
担当教員		飛永　高秀
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	
	テキストの概要	
授業計画		
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		プログラムエバリュエーション特論（Ｓ）
担当教員		小髙　真美
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目の到達目標は、社会福祉の現場におけるプログラム開発及びその評価に関する実践力を身に着けることです。 近年、社会福祉の問題の解決に向けた個々の社会福祉実践や組織的な介入プログラムは、科学的な効果評価が求められるようになってきています。また、ソーシャルワーカーには、いわゆるはざまのニーズといわれるような社会福祉二―ズを見える化し、プログラム化する能力が求められています。本科目では、社会問題の改善に向けた個々の社会福祉実践や組織的かつ継続的なプログラムについて、開発、あるいはその改善を図り、より効果的な実践やプログラムに発展させていくことを目的としたプログラム構築及びその評価の方法について検討します。具体的には、実践やプログラムの機能、効果を科学的かつ体系的に把握、評価、検討していくための方策について、社会調査などの科学的手法を活用しつつ、社会福祉実践に根ざしたアプローチ法の検討を行います。
	テキストの概要	テキスト①：安田 節之 ，渡辺 直登【著】（2008）『プログラム評価研究の方法（臨床心理学研究法 第 7 巻)』 新曜社 テキスト②：スミス，マイケル【著】〈Ｓｍｉｔｈ，Ｍｉｃｈａｅｌ　Ｊ．〉/藤江 昌嗣【監訳】/矢代 隆嗣【訳】（2009）『プログラム評価入門―行政サービス、介護、福祉サービス等ヒューマンサービス分野を中心に』梓出版社
授業計画		スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 １．　プログラム評価の概要/プログラムの目的の設定 ２．　研究計画１ ３．　研究計画２ ４．　プログラム評価の実行とデータの分析１ ５．　プログラム評価の実行とデータの分析２ ６．　プログラム評価の結果の報告 ７．　プログラムの記述・目的の設定の演習① ８．　プログラムの記述・目的の設定の演習② ９．　研究計画の演習１ １０．研究計画の演習２ １１．研究計画の演習３ １２．　プログラム評価の実行とデータの分析の演習１ １３．　プログラム評価の実行とデータの分析の演習２ １４．　まとめ
成績評価の方法		単位認定試験

実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		プログラムエバリュエーション特論（R）
担当教員		小髙　真美
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本科目の到達目標は、社会福祉の現場におけるプログラム開発及びその評価に関する実践力を身に着けることです。 近年、社会福祉の問題の解決に向けた個々の社会福祉実践や組織的な介入プログラムは、科学的な効果評価が求められるようになってきています。また、ソーシャルワーカーには、いわゆるはざまのニーズといわれるような社会福祉二―ズを見える化し、プログラム化する能力が求められています。本科目では、社会問題の改善に向けた個々の社会福祉実践や組織的かつ継続的なプログラムについて、開発、あるいはその改善を図り、より効果的な実践やプログラムに発展させていくことを目的としたプログラム構築及びその評価の方法について検討します。具体的には、実践やプログラムの機能、効果を科学的かつ体系的に把握、評価、検討していくための方策について、社会調査などの科学的手法を活用しつつ、社会福祉実践に根ざしたアプローチ法の検討を行います。
	テキストの概要	テキスト①：安田 節之 ， 渡辺 直登【著】（2008）『プログラム評価研究の方法（臨床心理学研究法 第 7 巻)』 新曜社 テキスト②：スミス，マイケル【著】〈Ｓｍｉｔｈ，Ｍｉｃｈａｅｌ　Ｊ．〉/藤江 昌嗣【監訳】/矢代 隆嗣【訳】（2009）『プログラム評価入門―行政サービス、介護、福祉サービス等ヒューマンサービス分野を中心に』梓出版社
授業計画		２つのレポート（1 つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 テキスト①：安田 節之 ， 渡辺 直登【著】（2008）『プログラム評価研究の方法（臨床心理学研究法 第 7 巻)』 新曜社 第１章　プログラム評価とは 第２章　事前調査とプログラムの検討 第３章　プログラム評価の計画と実施 第４章　プロセス評価 第５章　アウトカム評価 第６章　実験的手法を用いたプログラム評価 第７章　プログラム評価における測定の問題 第８章　さまざまな評価アプローチ 第９章　評価実施についての諸事項 テキスト②：スミス，マイケル【著】〈Ｓｍｉｔｈ，Ｍｉｃｈａｅｌ　Ｊ．〉/藤江 昌嗣【監訳】/矢代 隆嗣【訳】（2009）『プログラム評価入門―行政サービス、介護、福祉サービス等ヒューマンサービス分野を中心に』梓出版社 第１章　プログラム評価概論　第２章　プログラム評価の包括的な定義

	第３章　ステップⅠ　プログラムの記述 第４章　ステップⅡ　プログラムの目的の設定 第５章　ステップⅢ　研究計画 第６章　ステップⅣ・Ⅴ　プログラム評価の実行とデータの分析 第７章　ステップⅥ　プログラム評価の結果の報告		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		チームアプローチ特論（S）
担当教員		矢野　明宏
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本講の到達目標は、ソーシャルワークにおけるチームアプローチの概念整理をし、日頃の実践に有効に活かせる高度な実践力・支援力を身につけることです。 そのことによって、本専攻の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の以下に示してある力の一端を育んでいくことにもなります。 1. リスクマネジメント等を含む組織運営管理能力、組織デザイン・改革力、福祉資源開発力等を有していること。 2. 困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等を有していること。 3. 社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等を有していること。
	テキストの概要	テキスト構成としては、７章立てとなっています。 第１章では、ケアチームの概念について、整理されています。そもそものチームを中心とした概念整理をしています。第２章では、チームワークの難しさについて整理しています。チームアプローチの重要性は遠い鴨から叫ばれていますが、皆さんは、この章にあるような困難さのために、チームが機能していない現実を目の当たりにしているかもしれません。第３章では、チームワークの効果について整理しています。チームワークの難しさを克服すれば、チームの効果が明確になっていきます。第４章では、チ
授業計画		スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 第 01 回：イントロダクション・自分の思うチームアプローチとは ＜基本整理編＞ 第 02 回：今、なぜチームアプローチなのか？ 第 03 回：ソーシャルワーク専門職関係の法律、倫理綱領にみるチームアプローチ 第 04 回：地域包括支援センター等にみるチームアプローチ 第 05 回：チームアプローチの定義 第 06 回：他職種チームについて 第 07 回：包括的支援システムとネットワーク ＜実践事例編＞（許容範囲内で受講生の実践事例を加工して用いる場合もある） 第 08 回：チームアプローチの実際①在宅高齢者の権利擁護 第 09 回：チームアプローチの実際②終末期緩和ケア 第 10 回：チームアプローチの実際③居宅介護支援事業所を中心とした支援 第 11 回：チームアプローチの実際④精神障害者の退院支援 ＜まとめ編＞

	第 12 回：多職種とのパートナーシップ、チームアプローチの阻害要因 第 13 回：チームをめぐる倫理問題と個人情報保護・チームコンピテンス 第 14 回：総括 〈自宅学習〉 第１章 チームケアの概念 第２章 チームワークの難しさ 第３章 チームワークの効果 第４章 チームワークの工夫 第５章 リーダーシップ論 第６章 組織管理論 第７章 われわれの課題		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験 （経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		チームアプローチ特論（R）
担当教員		矢野　明宏
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	本講の到達目標は、ソーシャルワークにおけるチームアプローチの概念整理をし、日頃の実践に有効に活かせる高度な実践力・支援力を身につけることです。 そのことによって、本専攻の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の以下に示してある力の一端を育んでいくことにもなります。 1. リスクマネジメント等を含む組織運営管理能力、組織デザイン・改革力、福祉資源開発力等を有していること。 2. 困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等を有していること。 3. 社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等を有していること。
	テキストの概要	テキスト構成としては、７章立てとなっています。 第１章では、ケアチームの概念について、整理されています。そもそものチームを中心とした概念整理をしています。第２章では、チームワークの難しさについて整理しています。チームアプローチの重要性は遠い鴨から叫ばれていますが、皆さんは、この章にあるような困難さのために、チームが機能していない現実を目の当たりにしているかもしれません。第３章では、チームワークの効果について整理しています。チームワークの難しさを克服すれば、チームの効果が明確になっていきます。第４章では、チ
授業計画		２つのレポート（1 つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第１章 チームケアの概念 第２章 チームワークの難しさ 第３章 チームワークの効果 第４章 チームワークの工夫 第５章 リーダーシップ論 第６章 組織管理論 第７章 われわれの課題
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	

	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		ソーシャルワークリサーチ特論（S）
担当教員		稗田　里香
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	ソーシャルワークリサーチ特論の特徴は、担当教員全員によるオムニバス形式の授業であり、全教員の研究の専門性を知ることができるところです。また本科目内容を受講生が理解していることを踏まえて、２学期に必修のソーシャルワークリサーチ演習（スクーリング）が開講されます。そのため本科目の履修を強く勧めます。しかし、当該科目の内容をすでに理解している場合には本科目の履修は必要ではありません。そのため本科目は選択科目となっています。 さて、ソーシャルワーカーには、理論実践の統合を目指し、当事者のニーズに立った援助技法や理論の開発・展開、新たな福祉制度・政策デザインの構築のための調査・研究力が求められます。ミクロ・メゾ・マクロレベルでのソーシャルワーク実践においてリサーチは必須の技術であり、修士号を有するソーシャルワーカーには、その技術の「修得」が求められます。 本講義では、社会福祉学研究の目的・特徴・範囲、研究倫理を踏まえた上で、量的（統計）調査法、質的調査法の基礎について理解します。また、文献研究法についても取り扱います。そこで、本科目の到達目標は、社会福祉現場及びソーシャルワーク実践における当事者のニーズを把握する調査能力や福祉資源開発の根拠を示すためのエビデンスを得る方法・技術に関する知識を身につけることとします。 具体的には、個人の実践の経過、判断・行動の根拠、成果と課題等について客観的に記述・言語化し、検証するための企画（リサーチデザイン）、研究仮説の設定と検証、研究方法の適切性の吟味、先行研究の資料収集及び精査の方法等を学び、自らの研究計画を作成します。この方法・技術に関する知識を身につけることは、実践の評価等に応用が可能であり、根拠をもって社会福祉学に関する専門的な内容の論文執筆を行うための知識として必要です。ソーシャルワーカーがリサーチの技術を必要とする意味、ソーシャルワークにおける先行研究のレビューの方法、リサーチのデザイン（研究の設計と手順）、量的・質的なデータの分析方法を学びます。
	テキストの概要	岩田正美他編(2006)『社会福祉研究法－現実世界に迫る 14 レッスン』有斐閣
授業計画		スクーリングを選択した場合、スクーリングは本学で開催される講義を受講し、レポートを作成・提出することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 1　オリエンテーション(本演習の意義と目的、成績評価について他)　問いのたて方、研究計画の作り方 2　先行研究(文献)の探し方とまとめ方 3　先行研究のレビューの発表 4　研究の種類と概要

	5　量的研究の方法 1(概要) 6　量的研究の方法 2(データの収集方法と分析方法) 7　質的研究の方法 1(質的研究の方法・種類) 8　質的研究の方法２(データの収集方法と分析方法) 9　ミクロレベルの評価分析・研究の実際１ 10　ミクロレベルの評価分析・研究の実際 2 11　メゾレベルの評価分析・研究の実際 12　海外研究・国際比較研究の実際１ 13　海外研究・国際比較研究の実際２ 14　問題を政策と結ぶ研究の実際・研究計画の発表とまとめ		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		ソーシャルワークリサーチ特論（R）
担当教員		永野　咲・稗田　里香
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	ソーシャルワークリサーチ特論の特徴は、担当教員全員によるオムニバス形式の授業であり、全教員の研究の専門性を知ることができるところです。また本科目内容を受講生が理解していることを踏まえて、２学期に必修のソーシャルワークリサーチ演習（スクーリング）が開講されます。そのため本科目の履修を強く勧めます。しかし、当該科目の内容をすでに理解している場合には本科目の履修は必要ではありません。そのため本科目は選択科目となっています。 さて、ソーシャルワーカーには、理論実践の統合を目指し、当事者のニーズに立った援助技法や理論の開発・展開、新たな福祉制度・政策デザインの構築のための調査・研究力が求められます。ミクロ・メゾ・マクロレベルでのソーシャルワーク実践においてリサーチは必須の技術であり、修士号を有するソーシャルワーカーには、その技術の「修得」が求められます。 本講義では、社会福祉学研究の目的・特徴・範囲、研究倫理を踏まえた上で、量的（統計）調査法、質的調査法の基礎について理解します。また、文献研究法についても取り扱います。そこで、本科目の到達目標は、社会福祉現場及びソーシャルワーク実践における当事者のニーズを把握する調査能力や福祉資源開発の根拠を示すためのエビデンスを得る方法・技術に関する知識を身につけることとします。 具体的には、個人の実践の経過、判断・行動の根拠、成果と課題等について客観的に記述・言語化し、検証するための企画（リサーチデザイン）、研究仮説の設定と検証、研究方法の適切性の吟味、先行研究の資料収集及び精査の方法等を学び、自らの研究計画を作成します。この方法・技術に関する知識を身につけることは、実践の評価等に応用が可能であり、根拠をもって社会福祉学に関する専門的な内容の論文執筆を行うための知識として必要です。ソーシャルワーカーがリサーチの技術を必要とする意味、ソーシャルワークにおける先行研究のレビューの方法、リサーチのデザイン（研究の設計と手順）、量的・質的なデータの分析方法を学びます。
	テキストの概要	岩田正美他編(2006)『社会福祉研究法－現実世界に迫る 14 レッスン』有斐閣
授業計画		２つのレポート（1 つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。ただし、スクーリングの内容もご確認ください。スクーリングのスケジュールに示したリーディングに取り組んでいただくことは、レポートを選択した方の学習方法としても有効です。 〈自宅学習〉 第１部　社会福祉研究とは何か 第２部　研究の設計と手順 第３部　研究事例に学ぶ

<table>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="3">単位認定試験</td></tr>
<tr><td rowspan="8">実践的教育を行う授業科目の種別</td><td colspan="2">a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目</td><td></td></tr>
<tr><td>担当教員の実務経験
（経歴・資格等）</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>授業内容との関連性</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目</td><td></td></tr>
<tr><td>学外講師の経歴・資格等</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、
研修を行う授業科目</td><td></td></tr>
<tr><td>実習先・実習の目的</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

科目名		ケースカンファレンス特論（S）
担当教員		小松　美智子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	① ケースカンファレンスは地域に根差したソーシャルワークを進めるうえで中核となる多職種連携のコアな技術であることやその方法について学習する ② 地域に根差したソーシャルワーク推進が必要となってきた社会的背景を多角的に理解する ③ ケースカンファレンスの実践方法を理解し、多様な社会福祉現場において実践可能な力を身に付ける
	テキストの概要	市販名：多職種連携の技術 （中央法規出版/野中猛、野中ケアマネジメント研究会 著）ISBN:978-4-8058-5057-2
授業計画		スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで２単位を修得します。 〈スクーリング〉 第１回　ガイダンス・相互理解 第２回　ケースカンファレンスに関する共通理解 第３回　ケースカンファレンスの前提としての多職種連携について 第４回　多職種連携が必要となった社会的背景について① ・疾病構造の変化・医療提供体制の整備（国民皆保険など） 第５回　多職種連携が必要となった社会的背景について② ・少子高齢化・女性のライフスタイルの変化・家族機能の脆弱化 第６回　地域包括ケアについて 第７回　多職種連携のための基本 第８回　ケースカンファレンスの事前準備 第９回　ケースカンファレンスの実施 第 10 回　ケースカンファレンスの事後 第 11 回　ケースカンファレンスの実践① 第 12 回　ケースカンファレンスの実践② 第 13 回　ケースカンファレンスの実践③ 第 14 回　まとめ
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別		a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
		担当教員の実務経験（経歴・資格等）

	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		ケースカンファレンス特論（R）
担当教員		小松　美智子
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	① ケースカンファレンスは地域に根差したソーシャルワークを進めるうえで中核となる多職種連携のコアな技術であることやその方法について学習する ② 地域に根差したソーシャルワーク推進が必要となってきた社会的背景を多角的に理解する ③ ケースカンファレンスの実践方法を理解し、多様な社会福祉現場において実践可能な力を身に付ける
	テキストの概要	市販名：多職種連携の技術 （中央法規出版/野中猛、野中ケアマネジメント研究会 著）ISBN:978-4-8058-5057-2
授業計画		２つのレポート（1 つの課題に対してそれぞれ２つのレポート）を提出し、すべてに合格し、単位認定申請レポートを提出することで２単位を修得します。 〈自宅学習〉 第 1 講から第 5 講　連携に必要な基礎知識 第 6 講から第 8 講　多職種チームとして機能するための課題や効果について 第 9 講から第 10 講　連携を実現させるための人材育成方法と阻害要因 第 11 講　　連携に関する学術的定義
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

<table>
<tr><td colspan="2">科目名</td><td>ソーシャルワークリサーチ演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">担当教員</td><td>渡辺　裕一</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td rowspan="2">科目の概要</td><td>到達目標</td><td>はじめに、本科目の履修にあたり、「ソーシャルワークリサーチ特論」を修得済み、もしくは同等の知識・技術を有することが求められます。必ず「ソーシャルワークリサーチ特論」のスタディガイドを参照して、内容をご確認ください。また、本課程の修了にあたって、本科目は必修科目であることにご留意ください。
ソーシャルワーカーには、理論実践の統合を目指し、当事者のニーズにたった援助技法や理論の開発・展開、新たな福祉制度・政策デザインの構築のための調査・研究力が求められます。本演習では、ソーシャルワークリサーチ特論で学んだ社会福祉学・ソーシャルワークにおける研究の目的・特徴・範囲、研究倫理をふまえた上で、文献研究の方法、量的(統計)調査法、質的調査法の基礎について理解します。適切な研究計画を作成する力を身につけます。
そこで、本演習の到達目標は、社会福祉現場及びソーシャルワーク実践における当事者のニーズを把握する調査能力や福祉資源開発の根拠を示すためのエビデンスを得る方法・技術に関する知識を身につけることとします。具体的には、個人の実践の経過、判断・行動の根拠、成果と課題等について客観的に記述・言語化し、検証するための企画（リサーチデザイン）、研究仮説の設定と検証、研究方法の適切性の吟味、先行研究の資料収集及び精査の方法等を学び、自らの研究計画を作成します。この方法・技術に関する知識を身につけることは、実践の評価等に応用が可能であり、根拠をもって社会福祉学に関する専門的な内容の論文執筆を行うための知識として必要です。ソーシャルワーカーがリサーチの技術を必要とする意味、ソーシャルワークにおける先行研究のレビューの方法、リサーチのデザイン（研究の設計と手順）、量的・質的なデータの分析方法を身につけられるよう演習に取り組みます。</td></tr>
<tr><td>テキストの概要</td><td>岩田正美他編(2006)『社会福祉研究法－現実世界に迫る 14 レッスン』有斐閣</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業計画</td><td>① 本科目はスクーリングだけの学習方法で開講されます。スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで 1 単位を修得します。
〈スクーリング〉
1. オリエンテーション（本演習の意義と目的、成績評価について他）
2. 問い、問題意識を発表する、先行研究（文献）を探し、文献リストを作成する
3. 先行研究のレビューの発表①
4. 先行研究のレビューの発表②
5. 研究計画の発表①
6. 研究計画の発表②
7. 研究計画の発表③
8. 研究計画の発表④
9. 研究計画の発表⑤</td></tr>
</table>

	10. 研究計画の発表⑥ 11. 研究計画の発表⑦ 12. 研究計画の発表⑧ 13.　まとめ 14.　まとめ		
成績評価の方法	単位認定試験		
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目		
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）		
	授業内容との関連性		
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目		
	学外講師の経歴・資格等		
	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			

科目名		フィールドワーク演習
担当教員		大崎　広行・木下　大生・小髙　真美・野口　友紀子・稗田　里香・渡辺　裕一・渡邉　浩文
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	フィールドワーク演習は、専攻のディプロマポリシーに記載している 1. 困難事例に対する高度なソーシャルワーク技能、他職種・他機関との協働・連携力、人材育成力等を有していること。 2. リスクマネジメント等を含む組織運営管理能力、組織デザイン・改革力、福祉資源開発力等を有していること。 3. 社会福祉の現場における当事者のニーズを把握する調査能力、福祉資源開発力、ネットワーキング力等を有していること。 を社会福祉の実践現場を通して受講者自らの実践を振り返り、スーパービジョンを受けることによって涵養することを目的とする科目である。
	テキストの概要	テキストは原則使用しないが、こちらも各担当教員の指示に従うこと
授業計画		本科目の学習方法はスクーリングです。スクーリングは本学で開催される講義を受講し、試験に合格することで１単位を修得します。 受講者自らが作成した実践(実習)および調査計画に従って、フィールドワークを進め、実践(実習)および調査の実施指導を担当教員から適宜受け、計画終了後、まとめを行うと共に成果物を作成する。
成績評価の方法		単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）	
	授業内容との関連性	
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	
	学外講師の経歴・資格等	
	授業内容	
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目	
	実習先・実習の目的	
備考		

科目名		特定課題研究演習（人間＿実践）
担当教員		大崎　広行・木下　大生・熊田　博喜・小髙　真美・野口　友紀子・稗田　里香・渡辺　裕一・渡邉　浩文
授業方法		講義
科目の概要	到達目標	「特定課題研究演習」は、指定された課題に基づいて特定課題研究論文を執筆する科目です。必修科目なので、この科目の単位を取得しなければ、大学院を修了することはできません。 一般的に大学院では修士論文の執筆が必修になっていますが、本学の人間社会研究科では、修士論文に相当するものが特定課題研究論文になります。 「人間社会研究科」という研究科名が示しているように、研究対象は人間です。人間を研究する場合、さまざまな学問分野（哲学、宗教学、心理学、生物学、社会学、経済学など）からのアプローチが可能です。しかし、近代以降、それぞれの学問分野からの個別的アプローチでは人間を理解することはできないという反省から、学問分野を横断し、総合的に人間にアプローチする「人間学」の必要性が求められました。最近では「総合人間学」という言い方もされています。 人間社会研究科実践福祉学専攻も、このようなアプローチによって人間を研究することを目的にしています。しかし、実践福祉学専攻では、研究とその方法の修得を通して、困難事例への高い相談援助技能はもちろんのこと、ケースマネジメント力、人材育成力、他機関・他専門職との連携力、組織運営管理力、福祉資源開発力、研究力等を担保する具体的実践技能の理論化を行うことを目的としています。 従って、本学の人間社会研究科では、方向性や問題意識を明確にするために、修士論文ではなく、指定した課題に基づく特定課題研究論文にしました。 研究には独創性が求められることがあります。しかし、研究において最も重要なのは独創的な結論そのものではなく、どのような方法と手続きによってその結論を導き出したのかという研究方法になります。どんなに独創性的な結論であっても、いい加減な研究方法によって導かれたものであるなら、それは研究による結果ではなく、ただの思いつきにしか過ぎません。 以上の点から、特定課題研究論文では、あえて独創的な結論は求めずに、確実な研究方法を求めます。「特定課題研究演習」という科目の目的は、研究とはどのようなものであり、どのような方法で進めるのかという、研究能力を身に付けることです。研究能力を身に付けることができれば、大学院修了後、関心のあるテーマを各自で研究することができます。
	テキストの概要	なし
授業計画		授業計画に記載の内容を行い、合格することで４単位を修得します。 〈研究スケジュール〉 (2020 年)

	11 月 30 日まで　「研究計画書」提出 12 月中旬　指導教員通知または再提出通知 12 月 25 日正午まで　指導教員確認 ＊通知された指導教員の確認した旨の回答を行う。 (2021 年) 1 月 5 日 12:00 正午まで　「研究計画書」再提出（＊該当者のみ） 「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出 （＊指導教員を通知された者のみ） 1 月中旬　指導教員通知（＊「研究計画書」再提出者のみ） 1 月 19 日 12:00 正午まで　「指導教員確認」または「指導教員変更願」提出 （＊「研究計画書」再提出者のみ） 2 月上旬　公聴会参加（聴講）及び、中間発表１ 2 月 11 日まで　指導教員決定通知（「指導教員変更願」の結果通知を含む） 2 月中旬履修登録 3 月～5 月　第１回面接指導 ＊第２回目以降の面接指導は、指導教員と履修生が相談して回数と時期を決定します。 6 月　「中間発表」申し込み 8 月 10 日　「研究経過確認申請」提出 8 月上旬から 9 月上旬　中間発表２ 12 月 10 日まで　「論文提出許可願」提出 (2022 年) 1 月 10 日まで　「論文」提出「論文提出届」提出 1 月下旬か 2 月上旬　公聴会・口述試問 2 月上旬成績通知 8 月 10 日まで　「論文」提出（＊半年繰り上げ希望者のみ）「論文提出届」提出（＊半年繰り上げ希望者のみ） 8 月下旬か 9 月上旬　公聴会・口述試問（＊半年繰り上げ希望者のみ） 9 月中旬　成績通知（＊半年繰り上げ希望者のみ）
成績評価の方法	単位認定試験
実践的教育を行う授業科目の種別	a：実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目
	担当教員の実務経験（経歴・資格等）
	授業内容との関連性
	b：企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目
	学外講師の経歴・資格等

	授業内容		
	c：企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業科目		
	実習先・実習の目的		
備考			